

平成29年度 自己点検・評価に係る報告書

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置						
1・教育に関する事項 (1)入学者の確保	教務部 専攻科 広報室	<p>①入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、種々の手段により、地域社会への積極的な広報活動を展開する。</p> <p>(教務部) ○広報活動を対象とする地域を可能な限り広域化し、県内外の中学校をはじめ、学習塾に対する広報活動も継続する。 ○鳥取県内の中学校校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、本校校長から高専のPRをする。 ○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施する。 ○入学生アンケートの結果を基に入試広報資料の有効性を検証し、改善する。</p> <p>(専攻科) ○本科3、4、5年生に対して専攻科のPRを実施する。 ○本科4年生の保護者に対して専攻科のPRを行う。 ○専攻科のホームページの充実をはかる。 ○専攻科のパンフレットの情報を最新のものにして充実をはかる。 ○専攻科の掲示板の充実をはかる。</p> <p>(広報室) ○広報室を中心として、情報の一元化、及び広報業務の充実と効率化を図る。 ○外部メディアの活用も含む広範な広報活動を実施する。</p>	<p>(教務部) ○広報活動を対象とする地域を可能な限り広域化し、県内外の中学校をはじめ、学習塾に対する広報活動も継続した。平成28年度より活動を増やし、鳥取県東部の中学校7校と中学2年生を対象に鳥取県中部の中学校2校で進路説明会に参加した。(6~2月実施済) ○鳥取県東部の中学校2校で進路説明会に参加した。(6~2月実施済) ○鳥取県内の中学校の校長(または進路担当教員)を対象とする学校説明会を開催するとともに近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専のPRをした。(5月実施済) ○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を県内3会場、県外3会場で実施した。(9~10月実施済) ○入学生アンケートの結果を基に入試広報資料の有効性を検証した。また、中学校教員向けのPRパンフは、内容の大幅な見直しを行った。(8月実施済)</p> <p>(専攻科) ○4、5年生に対しては保護者懇談会でパンフレットを配布・PRし(7月実施済)、各学科の4年生に補講期間などを利用して個別にPRを行った。(2月実施済) ○3年生に対しては合同HRで専攻科の説明を行った。(2月実施済) ○専攻科ホームページの情報の更新を行った。(随時実施済) ○専攻科パンフレットは最新の情報に更新した来年度版を作成、配布した。(1月実施済) ○専攻科掲示板への専攻科関連情報を随時掲載した。(随時実施済)</p> <p>(広報室) ○各学科・科及び各部署からのメンバーで構成する広報室打ち合わせを年度当初(5月)に開催し、情報の一元化と充実、業務の効率化を図った。 広報誌『彦名通信』の編集作業などはメール会議を活用した。(彦名通信は7月、10月、12月、3月発行済・発行部数は各1,550部) 『彦名通信』は、10月発行分からフルカラー化して読みやすくなった。 ○広報室新設から5年を経過したこともあり、広報の戦略的な展開、発行者(学校要覧など)、体制・運営のあり方などについて検討し課題を抽出した。(2月実施済) ○地元ケーブルテレビ(鳥取県民チャンネル)の「知的セミナー」(毎月放送)や米子商工会議所報「サンプル」(年4回担当)などを通じて本校教員の研究紹介(研究成果の還元)や学校のトピックスの紹介などを行い、地域へのPRを図った。(随時実施済) 「とっとり産業技術フェア2017」(米子コンベンションセンター)において本校広報室のブースも出展し、企業・一般来場者等への広報活動を行った。(9月実施済)</p>			達成した。
②入試説明会、オープンキャンパス等の広報活動を充実させ、入学志願者の確保と学力水準の維持・向上を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。	教務部	<p>②入試説明会やオープンキャンパスを充実させる。</p> <p>(教務部) ○8月に2日間にわたってオープンキャンパスを実施し、志願者確保を図る。 ○中学校連絡専門部会のメンバーを増やしPR活動を推進するとともに、個別の訪問見学も随時受け付ける。 ○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施する。 ○機構で作成する女子中学生向けパンフレット等を活用し、女子中学生に対し高専をPRする。</p>	<p>(教務部) ○8月に2日間にわたってオープンキャンパスを実施し、これまで最大の613名の参加者があった。(8月実施済) ○中学校連絡専門部会メンバーを20名とし、PR活動を推進するとともに、オープンキャンパスに参加できなかった中学生をはじめとして、個別の訪問見学を2件受け付けた。(11月、12月実施済)また、中学生ばかりでなく近隣の小学生20名の本校の見学も実施した。(10月実施済) ○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を県内3会場、県外3会場で実施した。(9~10月実施済) さらに、姫路市で開催された第4ブロック5高専合同入試説明会に参加し、本校のPRを行った。(8月実施済) ○機構で作成する女子中学生向けパンフレット等を活用し、オープンキャンパス等で女子中学生に対し高専のPRを継続した。(随時実施済)</p>			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>③中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実する。 入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、外部メディアの活用を含む広範な広報活動を展開する。 ホームページの充実を図る。</p>	<p>教務部 専攻科 広報室</p>	<p>③中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実し、広範な広報活動を展開する。 (教務部・専攻科) ○広報室と連携して本科入学生のため及び専攻科の魅力を発信するためのホームページやパンフレットの充実を図る。 (広報室) ○中学生向けの広報資料の充実を図る。 ○校外向けホームページの充実を図る。</p>	<p>(教務部・専攻科) ○年度末に向けて広報室と連携して本科および専攻科入学生のためのパンフレット改訂やホームページの充実を継続して図った。(4月～実施済) ○中学校での進路説明会やオープンキャンパス等に参加した中学生・保護者に対し、パワーポイントによる学校説明やパンフレット等により本校の魅力やPRした。(8月～実施済) ○中学校教員向けのPRパンフの内容について、大幅な見直しを行った。(8月実施済) ○オープンキャンパスをはじめとして、機構で作成するパンフレット等を活用し、広報活動を展開した。(中学校の説明会では6～11月実施済、OGでは8月実施済、その他はその都度実施済) (広報室) ○本校PRページの内容を改訂したマンガ広報冊子を作成し、県内並びに隣接県の中学校等に郵送した。(郵送:193校496部(11月実施済)・その他外部広報、イベント配付1,000部) ○Googleストリートビュー(屋内版)の導入について検討した。検討の結果、今回は導入を見送ることとした。(11月実施済) ○医工連携研究センターのホームページが新設され、校外向けホームページのトップページにバナーを貼って公開した。(3月実施済) ○KOSEN(高専)4.0イニシアティブへの採択を広報するため、『彦名通信』(10月号)、「知的セミナー」(9月放送分)と併せて、校外向けホームページ用のバナーを作成しページを開設した。(3月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>④ものづくりに関心と適性を有する人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。</p>	<p>教務部 専攻科</p>	<p>④ものづくりに関心と適性を有する人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。 (教務部) ○入学生の募集に当たり、中学生、保護者に対し本校の入学者受入の方針(アドミッションポリシー)をはじめ、卒業認定・修了認定の方針(ディプロマポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)を募集要項などを通じて伝える。 ○マークシート方式による本科学力試験について、手順を確立するとともに、ミスが発生しないような対策を継続して構築する。 (教務部・専攻科) ○編入試験や専攻科学力入試の英語試験問題について外国人によるピアレビューを実施する。 (専攻科) ○専攻科学力試験問題の英語についてネイティブチェックを実施する ○専攻科推薦入試において新たな基準によって入学者選抜を実施する。 ○平成31年度学力入試から英語の学力試験に替えてTOEICスコアを利用するための基準を検討する。</p>	<p>(教務部) ○入試説明会、募集要項、HP等により入学生の募集に当たり、中学生、保護者に対し、本校の入学者受入の方針(アドミッションポリシー)をはじめ、卒業認定・修了認定の方針(ディプロマポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)を募集要項などを通じて伝えた。(5月～実施済) ○マークシート方式による本科学力試験について、手順を確立するとともに、ミスが発生しないような対策を継続した。 (教務部・専攻科) ○編入試験や専攻科学力入試における外国語試験問題について外国人によるピアレビューを実施した。(8月・10月実施済) (専攻科) ○12月に行われる専攻科学力試験問題の英語については、ネイティブチェックを実施した。(11月実施済) ○専攻科推薦入試において、学業成績のGPAを評価に組み込んだ新しい基準によって入学者選抜を実施した。(5月実施済) ○平成31年度学力入試から英語の学力入試に替えてTOEICスコアを利用するための基準を検討し、入試委員会と語った。(9月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>⑤入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子中学生を含めて、入学志願者数の確保に努める。 寄宿舎に関する中・長期計画の策定を基に計画的な整備を推進し、必要に応じて予算要求を行う。</p>	<p>教務部 事務部</p>	<p>⑤入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子中学生を含めて、入学志願者数の確保に努める。 (教務部) ○物質工学科、建築学科以外の学科への女子学生の入学を推進する方法について検討し、新たな中学校向けのPRのうち可能なものから実施する。 (財務) ○予算要求に向けて、関係各所と連携を図り、実現可能な計画を検討する。</p>	<p>(教務部) ○物質工学科、建築学科以外の学科への女子学生の入学を推進する方法について検討し、機械工学科のパンフレットに加えて、電子制御工学科でも女子学生の活躍を入れたチラシを作成した。(4月実施済) また、女子中学生の志願者増を期待して、オープンキャンパス2日目に、女子中学生および本校女子学生を主対象として、活躍する女性ロールモデル講演会を実施した。(8月実施済) (財務) ○今後の留学生総数や女子留学生・女子寮生の増加を考慮した寮部での整備計画策定結果を踏まえて、関連部署と検討・協議を行い今後の寮の整備計画を検討した。(11月～実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
(2) 教育課程 の編成等	①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて 学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行 う。	運営会議 教務部 専攻科	①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を 見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。 (運営会議) ○平成29年3月15日に将来構想検討委員会から答申された米子 高専の将来を見据えた育成する人材像、“KOSEN(高専)4.0”イニシ アティブを足がかりとした新産業対応型教育のあり方など、地域 の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実 を検討する。 (教務部・専攻科) ○産業界のニーズ・動向に合わせ、高専機構本部の動きと連動し つつ、将来構想委員会の答申をベースに、本科や専攻科の改組を 検討する。 (専攻科) ○地域の実情に合わせた専攻科の整備・充実を検討する。	(運営会議) ○平成27年度に発表した米子高専将来ビジョン基本方針を受け、平成28年度に将来構想検討委員 会で審議・検討した結果を答申書にまとめ、学内教職員を対象として説明会を開催した。(5月実施 済) ○「学科再編等検討WG」を設置し、将来構想検討委員会・答申書をベースに1学科複数コース制導 入を前提として、入試方法、コース設計の検討を行った。(6月～実施済) ○「KOSEN(高専)4.0”イニシアティブにおいて、申請していた2事業が採択され、第4期中期目標期間 への助走期間として取り組みを行った。(7月～実施済) (教務部・専攻科) ○15歳人口の減少や産業界のニーズ・動向に合わせ、教務主事・専攻科長を中心とした学科再編 等検討WGの中で、高専機構本部の動きとも連動し、平成32年度から導入する本科の改組について 検討した。(6月～3月実施済) (専攻科) ○学科再編等検討ワーキンググループなどで専攻科の充実もあわせた検討を行っている。(4月～ 実施済)			達成した。
	①-2 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある 企業にアンケートを実施し、産業界における人材需要 や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の 大括り化等について検討を行う。	運営会議	①-2産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応し た学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。 (運営会議) ○平成27年度に実施した定期的(原則:1回/5年)企業・卒業生ア ンケート結果、および平成28年度に将来構想検討委員会が企業・ 大学に実施した今後要望される技術者像に関するアンケート結果 などを分析し、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等 に対応した学科・専攻科の再編等について検討を行う。	(運営会議) ○「学科再編等検討WG」を設置し、アンケート結果を分析・反映した将来構想検討委員会・答申書 をベースに1学科複数コース制導入を前提として、入試方法、コース設計の検討を行った。(6月～実 施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>②本科入学時の基礎学力を把握するための試験を実施する。 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」について学習到達度試験を実施し、試験結果を分析し、学生の学習到達度を向上させるための教育課程や教授方法の改善に役立てる。 本科及び専攻科でTOEICを義務付け、その結果を基に英語力の強化について検討する。 英語を科目としてだけでなく、実際のコミュニケーションのツールでもあるということを意識させるような大会等への参加を促し、国際的な研修、アカデミックな講習会などへの参加を奨励する。</p>	<p>教務部 専攻科 教養教育科</p>	<p>②入学時の基礎学力を把握するための試験や学習到達度試験を実施し、結果の分析を行う。また、英語については、TOEICを義務付け、英語力を向上させる。 (教務部) ○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施する。 ○学習到達度試験(「数学」、「物理」)を実施することで、直前の模擬試験の実施、過去問題の長期休業中の課題への利用、公式等をまとめた復習用教材の作成等を通して、学習改善に役立てる。 ○本科3年生全員にTOEIC受験を実施する。 ○実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行う。 ○初級および中・上級のTOEIC講座の実施方法や内容について見直し、講座への参加者増加の方策を検討・実施する。 (専攻科) ○TOEICスコアを分析し、学生の英語力の伸長状況・教育効果を検討する。 ○平成31年度学力入試から英語の学力試験に替えてTOEICスコアを利用するための基準を検討する。 ○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸長に関して情報交換を行い、効果的な教授法について検討する。 (教養教育科) ○昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、課題を出すなど学生の学習到達度を向上する教育を実施する。 ○数学検定の受験を奨励し、その単位化を検討する。 ○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテストへの参加を奨励する。 ○工業英検、TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促し、結果の向上を記録してフィードバックを行う。 ○低学年(1～3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施する。 ○国際大会等に参加する学生のプレゼン等の英語指導を専門学科の教員と連携して行う。 ○全学年の希望者を対象としてTOEIC対策講座を前後期各10回実施する。講座に参加し一定の条件をクリアした学生に対し、優遇措置を設けることで、意欲的な学習への取り組みを促す。</p>	<p>(教務部) ○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施した。(4月実施済) ○平成30年1月実施の学習到達度試験(「数学」、「物理」)に目標を設定して、過去問題を長期休業中の復習用課題として活用(8～9月実施済)、公式等をまとめた復習用教材の作成(12月実施済)、直前模擬試験等を実施した。(12～1月実施済) ○学習到達度試験に対する意識を早期からもつよう、1年生がCBTトライアルに参加した。(10月実施済) ○本科3年生(全員)にTOEIC受験を実施した。(2月実施済) ○年度末に実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行った。(3月実施済) ○英語力向上のためのTOEIC講座を、本校の常勤教員を講師として、前期に10回実施し、参加者は(のべ)465名であった。(5～7月実施済) また、後期の講座の参加者は286名であった。(10～12月実施済) (専攻科) ○TOEICスコアの分析を行って、学生の英語力の伸長状況・教育効果を検討し、学力入試への導入方法を検討した。(8月実施済) ○平成31年度学力入試から英語の学力入試に替えてTOEICスコアを利用するための基準を検討し、入試委員会に諮り、導入した。(9月実施済) ○外国語科主任と意見交換を行って、今後のTOEICスコアアップの方策を検討した。(8月実施済) (教養教育科) ○昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、前期より基礎的な問題を宿題に出すなど学生の学力が向上する教育を実施した。(随時実施済) ○前期のガイダンス時に数学検定の受験を奨励し、その単位化を検討する数学部会を開催した。(9月実施済) ○前期のガイダンス時に英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテストへの参加を奨励した。(4月実施済) ○前期のガイダンス時に工業英検、TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促し、結果の向上を記録してフィードバックを行った。(1月実施済) ○低学年(1～3年生)において、前期の授業の中で10回語彙テストを行った。(随時実施済)また、学年ごとの英単語コンテストを実施した。(1月実施済) ○今年度国際大会等に参加する3名の学生のプレゼン等の英語指導を専門学科の教員と連携して行った。(1月実施済) ○全学年の希望者を対象としてTOEIC対策講座を前後期とも10回実施した。なお、講座に参加し一定の条件をクリアした学生に対し、優遇措置を設けることで、意欲的な学習への取り組みを促した。(随時実施済) ○今年度より、新たに低学年向けにTOEIC Bridgeの受験を奨励したところ、11名の受験者があった。(随時実施済) ○TOEICのスコアアップのため、3年生の希望者を対象にReally English社のオンライン講座トライアルを紹介したところ、41名が取り組んだ。(随時実施済)</p>			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>③学生・教職員アンケートを実施し、その結果を纏め各部署における改善に役立てる。 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、各部署における改善に役立てる。 在校生に授業評価アンケートを実施する。 米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)を活用し、学校改善のため、卒業生との情報交換を行う。</p>	<p>企画部 教務部 専攻科 地域共同 テクノセンター</p>	<p>③卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。 (企画部) ○学生・教職員アンケートを実施し、その結果を分析し、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における改善への具体的取り組みを促す。また、この調査結果を校内ホームページに公開する。 ○平成27年度に実施し、年度末に纏めた卒業生・修了生ならびに採用実績企業への定期的(原則:1回/5年)アンケート結果、および平成28年度に将来構想検討委員会が企業・大学に実施した今後要望される技術者像に関するアンケート結果に基づいて、点検・評価委員会等にて審議後、各部署における中期的視座に立った改善への具体的取り組みを促す。 (教務部) ○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。 (教務部・専攻科) ○在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開する。 ○校内ホームページで公開された授業評価アンケートの結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにする。 ○授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会をできるだけ企画する。 (地域共同テクノセンター(Ynct-net)) ○米子高専同窓会総会及び支部(関西・中部)総会、更に米子高専首都圏同窓会総会の機会を利用して、進路担当責任者による卒業生受入企業訪問及び卒業生との交流会(情報交換会)を実施する。 ○米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)の人的基盤である同窓会組織、更に、Ynct-netポータル・サイトや米子高専同窓会FBの利用促進など卒業生との情報交換網の整備・充実を図る。</p>	<p>(企画部) ○昨年度実施した学生・教職員アンケート結果を取りまとめると共に点検・評価委員会で報告し(4月実施済)、運営会議・学科長会議において各部署への伝達と今年度中の取組を検討した。(5月実施済) また、本結果をHP上に掲載し広報に努め(6月実施済)、学生アンケートに基づく主な改善項目については、期中フォローアップにおいて進捗状況の確認を行った。(10月実施済) ○昨年度の学生アンケート結果において、教室空調設備への意見が多くあったことを受け、施設係と協力し、前期試験期間中に冷房設定温度27℃を試行した。これに合わせて「冷房の快適性に関する学生アンケート」を6クラスで実施し取りまとめることで、今後の改善策の検討を進めた。(8月実施済) なお、8～9月分の電気使用量は過去5年間の平均値程度であることも確認した。(10月実施済) また、1～2月にかけて「暖房の快適性に関する学生アンケート」を7クラスで実施しとりまとめることで、実態把握を進めた。(2月実施済) ○学生相談室「心とからだの健康調査」の実施支援に合わせて、全学生対象「学習意欲などの実態調査アンケート」を実施し、その結果を学科再編等検討WG資料として各部署へ公表した。(6月実施済) ○平成27年度卒業生・修了生および採用実績のある企業等を対象とする定期的アンケート(5年毎)の結果について、「米子高専独自の自己点検・評価報告書」の内容として含め、内部評価を実施した。(8～9月実施済) ○平成29年度の学生・教職員アンケートを実施し、全ての対象部門で80%以上の回収率を達成した。(3月実施済)年度末から新年度にかけてその結果を纏める予定である。 (教務部) ○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開した。(11月実施済) (教務部・専攻科) ○前期開講科目については在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開した。(10月実施済) ○前期開講科目についての授業評価アンケート結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにした。(10月実施済) ○授業評価の結果を基にした、スキルを磨くためのFD研修会の代わりに、ALのためのGW形式の公開授業を2年生の化学の授業で実施した。(2月実施済) (地域共同テクノセンター(Ynct-net)) ○米子高専同窓会関西支部・総会・講演会・懇親会(5月実施済)、米子高専同窓会中部支部・総会・テクノフォーラム・懇親会(7月実施済)と合わせて、「米子高専同窓会関西支部-米子高専交流会」、「米子高専同窓会中部支部-米子高専交流会」を実施した。 ○Ynct-net同窓会ビジョン検討会・情報発信委員会を中心に、米子高専同窓会FBの運用に加え全国版メルマガの配信を開始(1月実施済)し、Ynct-netポータル・サイト利用促進のため、ポータル・サイト・リニューアルの検討を行った。(適宜実施済)</p>	<p>(教務部・専攻科) ○公開授業への参加者が10名程度と非常に少なかった。並行して他のクラスでも授業が行われていたことも考慮しても、学内への周知不足が原因の一つであると思われる。加えて、教員への授業改善へのモチベーションも考える必要がある。</p>		達成した。
<p>④ロボコン・ブロンコン・デザコン・CADコン及び高専体育大会への参加を奨励する。</p>	<p>学生部</p>	<p>④スポーツ系、文科系クラブなどの全国的な各種競技会等やロボットコンテストなどの全国的なコンテストへの参加を奨励する。 (学生部) ○ロボコン・ブロンコン・デザコン・プレコン及び学会発表などを奨励する。 ○高専体育大会をはじめとする各種大会への参加を奨励する。 ○平成29年度中国地区高専体育大会を主管校として実施する。 ○優秀な成績はホームページや掲示等で、また特に優秀な成績については横断幕を作成し学内外にPRする。</p>	<p>(学生部) ○中国地区高専体育大会、全国高専体育大会参加学生を支援した。(7～8月及び11月実施済) ○平成29年度中国地区高専体育大会を主管校として実施した。(7月実施済) ○ロボコン・中国大会・全国高専ブロンコン参加学生を支援した。(10月実施済) ○全国高専デザコン参加学生を支援した。(12月実施済) ○各種大会やコンテストでの優秀な成績はホームページや掲示等で、また特に優秀な成績については横断幕を作成し学内外にPRした。(4月～実施済)</p>			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
(3) 優れた教員の確保	⑤学生会主導による清掃活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。 白砂青松アダプトプログラムにボランティアとして継続参加し雪害を受けた松林の再生に取り組む。 寮生会主導による清掃活動やボランティア活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。	学生部 寮務部	⑤ボランティア活動などの社会奉仕体験活動を実施する。 (学生部) ○学生会主導による清掃活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。 ○白砂青松アダプトプログラムにボランティアとして継続参加し、雪害を受けた松林の再生に取り組む。 (学生部・寮務部) ○粟島神社の清掃及び「われもこう祭」等イベントの支援・ボランティア活動を実施する。	(学生部) ○学生会主導による月ヶ浜海岸清掃活動を実施した。(7月実施済) ○白砂青松アダプトプログラムに伴う学生による松林の清掃活動を実施した。(6月実施済) ○白砂青松アダプトプログラムに伴う教職員による松林の除草作業を実施した。(9月実施済) ○白砂青松アダプトプログラムに伴う学生による松林の植林活動を実施した。(11月実施済) (学生部・寮務部) ○粟島神社の清掃奉仕を2回実施した。(6/27,10/5実施済・延べ参加寮生52名) また、近隣施設の「われもこう祭」において、イベント運営の支援を行った。(10/14,15実施済・延べ参加寮生33名) ○近隣施設の「われもこう祭」において、吹奏楽部が演奏を行った。(10月実施済)			達成した。
	①多様な背景を持つ教員組織とするため、引き続き公募制を導入し、採用にあたっては適切な配慮を行う。	運営会議	①多様な背景を持つ教員組織とするため、採用にあたっては、適切な配慮を行う。 (運営会議) ○優れた教育力を有する者を採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化について組織的な配慮を行った上で、その改善に関する記述を積極的に盛り込む。また、教員採用選考に関する組織の見直しを図り、多角的に人物選考ができる体制とする。	(運営会議) ○優れた教育力を有するものを採用するため、教員人事会議で学科等の年齢構成、その他諸条件を考慮しながら、学科間の公平性や透明性の担保、専攻科における特例適用担当の可否、あるいは企業等との連携実績など多角的に人物選考を行った。(5月～実施済)			達成した。
	②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために可能な範囲で人事交流制度を活用する。	運営会議	②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、可能な範囲で人事交流制度を活用する。 (運営会議) ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野及び派遣候補者の推薦を依頼する。 ○各学科・科から提出された資料をもとに、教員人事会議で審議の後、運営会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告する。	(運営会議) ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼したが、派遣候補者の推薦はなかった。(6～7月実施済)			達成した。
	③専門科目及び一般科目理系については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。	運営会議	③理工系については博士の学位を持つ者や技術士・建築士等の職業上の高度な資格を持つ者、理工系以外については修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。 (運営会議) ○教員の学位・高度な資格等、また最近の業績を調査し、調査結果に基づき学校要覧や研究シーズ集に掲載する。 ○新任教員募集に当たっては、募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み採用する人材を吟味する。 ○学校教育法に基づき、年度毎の教員の業績調査を4月に実施し、専攻科の特例適用認定・専攻科レビュー等に採る研究・教育力の維持・向上に努める。	(運営会議) ○教員の学位・高度な資格等を調査し、調査結果に基づき学校要覧や研究シーズ集に掲載した。(5月実施済) ○新任教員募集に当たっては、学科等の年齢構成、その他諸条件を考慮しながら募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み、審査した。(5月～実施済) ○平成28年度に教員の業績評価に関する規則整備を行い、平成29年度から年度当初に教員の業績を把握し、効率的に評価する運用を開始した。(4月実施済)			達成した。
	④女性教員の比率向上を可能な範囲で図る。 女性教職員に対する、就業環境改善を目的とした整備を行う。	運営会議 事務部	④女性教員の比率向上を図る。 (運営会議・財務) ○各学科・科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載する。 ○女性教職員の就業環境改善のため、男女共同参画推進室の設置と具体的運用により、女性教職員の意見を聴取しながら、更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。	(運営会議・財務) ○全ての教員募集要項に女性教員を積極的に募集する旨を記載した。(5月～実施済) ○女性教職員の就業環境改善のため、男女共同参画推進室(11月設置)と連携し、女性教職員の意見を聴取し女性用トイレの整備を行った。(2月実施済)	(運営会議・財務) ○女性教職員の就業環境改善のための整備は、トイレ等衛生面に対する措置を含めて引き続き検討する必要がある。	(運営会議・財務) ○男女共同参画推進室と連携しトイレ等の設備の整備を進める。	達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>⑤各種FDなどを活用し教員の能力向上を目的とする研修を実施する。また、本校以外で実施される研修等にも教員を積極的に派遣する。</p> <p>FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力の向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観等を実施する。</p>	<p>運営会議</p>	<p>⑤ファカルティ・ディベロップメントなど教員の能力向上を目的とした研修を実施する。</p> <p>(運営会議) ○授業評価アンケート結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施する。 ○FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施する。 ○採用2年以内の新任教員の居室として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図る。 ○FD活動を機能化させるための組織を作り、各部署で実施しているFDの集約化を図り、より効率的なFDの実施に取組む。</p>	<p>(運営会議) ○授業評価アンケートの結果が優れた教員を選出し、新任教員による授業見学を実施した。(前期は6月実施済、後期は10～11月実施済) ○FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員による新任教員の授業参観を実施した。(10月～実施済) ○採用2年以内の新任教員の居室として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図った。(4月～実施済) ○FD・SD活動を機能化させるため、第一段階として運営会議でFD・SD活動の集約化を図り、効率的なFD・SD活動の実施に取り組んだ。(5月～実施済) ○FD・SDに組織的に取り組むことを目的として、委員会を組織した。(11月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>⑥機構主催の教員顕彰制度などを活用し、教員の教育活動や生活指導の活性化を奨励する。</p> <p>毎年度、教育研究活性化経費配分によるインセンティブ付与を行うことで教員の活性化を促す。</p> <p>点検・評価委員会にて、教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行う。</p>	<p>運営会議 点検・評価委員会</p>	<p>⑥機構主催の教員顕彰制度などを活用し、教員の教育活動や生活指導の活性化を奨励する。</p> <p>(運営会議) ○機構主催の教員顕彰制度を活用し、教員の教育活動や生活指導などの取組結果を踏まえ運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行う。 ○前年度の地域貢献活動に関する評価アンケートや、「地域共同教育」という視座に立った教員の教育研究活動に関する取組状況について調査し、評価基準に基づいた評価の上で運営会議で地域貢献助成金等の配分を決定する。</p> <p>(点検・評価委員会) ○教育研究活性化経費(ブレ科研費・新任/若手研究助成費等)の公募を実施し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行うことでインセンティブ付与による教員の活性化を促す。 ○点検・評価委員会にて、前年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行う。</p>	<p>(運営会議) ○機構主催の教員顕彰制度を活用し、教員の教育活動や生活指導などの取組結果を踏まえ運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行った。(11月実施済) ○企業からの技術相談および地域貢献活動については評価アンケート結果を基に前期・後期の実施結果をまとめ(9月・3月実施済)、インセンティブ付与を行った。(11月実施済・翌年6月実施予定)</p> <p>(点検・評価委員会) ○教育研究活性化経費(ブレ科研費・新任/若手研究助成費等)の公募を実施(7月実施済)し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行うことでインセンティブ付与による教員の活性化を促した。(9月実施済) ○点検・評価委員会にて、前年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行った。(6月実施)</p>			<p>達成した。</p>
<p>⑦各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。</p>	<p>運営会議</p>	<p>⑦各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。</p> <p>(運営会議) ○国内外の大学等での研究・研修に関する情報を適宜メール等で知らせる。 ○教員の国内外の大学等での研究・研修報告をホームページ等に掲載し公表する。 ○長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「共同研究助成」制度の活用や「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き実施する。</p>	<p>(運営会議) ○国内外の大学等での研究・研修に関する情報を適宜メール等で知らせた。(4月～実施済) ○教員の国内外の大学等での研究・研修報告をホームページ等に掲載し公表した。(4月～実施済) ○長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・技科大間教員交流制度」の活用を検討した。(4月～実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム	①-1 モデルコアカリキュラムの導入を進める。「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進する。ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用について検討する。 本科低学年の学習支援を実施する。	教務部	①-1モデルコアカリキュラムの導入を進めるとともに、エンジニアリングデザイン教育を推進し、ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用を促進する。 (教務部) ○モデルコアカリキュラムの内容を取り入れ、30単位分の学修単位を導入した新カリキュラムを確定し、平成30年度からの適用に備える。 ○新カリキュラムをベースに平成30年度に向けて、ルーブリック作成等を含めて、Webシラバス導入の準備をする。 ○アクティブラーニングによる学生の主体的学習促進のため、公開授業の開催を検討する。 ○CBTを学習到達度試験(数学・物理)対策や複数の専門学科で授業に利用し、レポート提出等にBlackboardをはじめとするLMSを継続して利用する。 ○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図る。 ○学生TAの活用を含めた本科低学年の学習支援方法を検討し、より自学自習ができる環境整備を検討する。 ○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業研修を実施し、講義力アップを図る。 ○教員による編入学生への学習支援を実施する。	(教務部) ○モデルコアカリキュラムに準じた、本科4・5年生の専門科目に30単位分の学修単位を導入し、かつ採択された"KOSEN(高専)4.0"イニシアティブの一部を反映した新しいカリキュラムを策定した。(11月実施済) ○新カリキュラムをベースにカリキュラムマップの見直しやルーブリックの作成等によって、平成30年度のWebシラバスが2月にできあがった。(6～2月実施済) ○AIによる学生の主体的学習促進のため、GW形式の公開授業を2年生の化学の授業で実施した。(2月実施済) ○CBTを学習到達度試験(数学・物理)対策や複数の専門学科で授業に利用し、レポート提出等にBlackboardをはじめとするLMSを継続して利用しており(4月～実施済)、本科1年生を対象に高専機構主催の習到達度試験CBTトライアル(1年生、数学・化学)に参加した。(10月実施済) ○採択された"KOSEN(高専)4.0"イニシアティブ等の競争的資金を活用し、企業人材を活用した教育プログラムを実施することで教育内容の充実を図った。(7月～実施済) ○数学、物理についてTAによる本科低学年の学習支援を実施している。(5月～実施済) ○新任教員(3名)に対し、ベテラン教員による双方向授業参観を実施し、講義力アップを図った。(5月・10月実施済) ○留学生及び編入学生へ学習支援の必要性について各学科長に連絡・確認した。(10月実施済)	(教務部) ○来年度以降もMCCをより完全なものとするために、カリキュラムマネジメントを継続して実施し、Webシラバスへ反映させる予定である。 ○公開授業への参加者が10名程度と非常に少なかった。並行して他のクラスでも授業が行われていたことも考慮しても、学内への周知不足が原因の一つであると思われる。加えて、教員への授業改善へのモチベーションも考える必要がある。		達成した。
	①-2 高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。	教務部	①-2「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。 (教務部) ○高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進める。 ○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。	(教務部) ○高専機構と連動し、第4ブロック研修会(9月)等に参加し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めた。(随時実施済) ○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進している。(4月～実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
②JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努める。 在学中の資格取得を奨励する。	専攻科 キャリア支援室 JABEE委員会	②JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努めるとともに、在学中の資格取得を奨励する。 (専攻科) ○複合システムデザイン工学プログラムおよび建築学プログラムのJABEE認定継続審査を受審して、認定の継続を図る。 ○学位授与機構による特例専攻科・認定専攻科の再審査を受審して特例適用専攻科の継続を図る。 ○特例適用専攻科の学修総まとめ科目を担当する教員の増員を図る。 (キャリア支援室) ○資格試験の案内パンフレットを作成し、在学生に配付する。 ○在学中の資格取得状況を調査し、その結果を公表する。 (JABEE委員会) ○本年度JABEE認定プログラム(本校:複合システムデザイン工学P・建築学P)の継続審査を受審し、認定を目指す。また、同時に教務部・専攻科と連動して本科・専攻科のカリキュラム改訂を含めた継続的な教育の質の向上に努める。	(専攻科) ○複合システムデザイン工学プログラム及び建築学プログラムのJABEE認定継続審査を受審するため、7月までに自己点検書を作成・提出した。11月には実地審査を受審した。3月にJABEE事務局より両プログラム共に6年間の認定継続決定の通知があった。(4~3月実施済) ○学位授与機構による特例適用専攻科・認定専攻科再審査を受審するため、申請書を9月までに提出した。2月に全ての申請が認められたとの通知があった。(4~2月実施済) ○特例適用専攻科の学修総まとめ科目の変更申請を9月末までに行っており、2名の指導補助教員から指導教員への変更、1名の指導補助教員の追加について申請した。2月に全ての申請が認められたとの通知があった。(4~2月実施済) (キャリア支援室) ○資格試験の案内パンフレットを作成し、4月に在学生が閲覧できるように今年度からWeb公開した。 ○在学中の資格取得状況を2月末までに調査し、その結果を米子高専広報誌「彦名通信192号」にて3月に公表した。 (JABEE委員会) ○平成29年度JABEE継続審査受審に関しては、JABEE審査に係わる準備WG及び専攻科を中心として自己点検書を作成し、JABEEへ提出し(6月実施済)、実地審査を受審した。(11月実施済) 3月にJABEE事務局より両プログラム共に6年間の認定継続決定の通知があった。 ○平成29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、平成27年度~平成28年度の答案などの成績資料保管に関するアナウンスと審査受審に対する協力要請を教職員に対して行った。(4月・10月実施済) また、平成26年度JABEE中間審査の結果を受けて、「改善を要する点」に係わる本科・専攻科のカリキュラム改訂及び講師の確保などを含めた継続的な教育の質の向上に努めている。(4月~実施済) ○継続審査での指摘事項を受けて、今後の継続的改善につなげる方針をJABEE委員会で検討した。(3月実施済)			達成した。
③学校の枠を超えた学生の交流活動を推進・奨励する。	専攻科 学生部 寮務部	③学校の枠を超えた学生の交流活動を奨励する。 (専攻科) ○中四国専攻科研究交流会に参加する。 (学生部) ○平成29年度中国地区高等専門学校執行長会議および文化連盟運営委員会を開催し学生の交流を図る。 (寮務部) ○他高専の寮生会との交流会を実施する。	(専攻科) ○学部で開催された中四国地区専攻科生研究交流会に学生14名(生産システム工学専攻10名、物質工学専攻4名)、指導教員4名が参加した。(4月実施済) (学生部) ○平成29年度中国地区高等専門学校執行長会議および文化連盟運営委員会を本校主催のもとで開催して学生の交流を図った。(6月実施済) (寮務部) ○新居浜高専寮生会との交流会を実施した。(12月実施済み・参加役員12名)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
	教務部 専攻科 リベラルアーツセンター 医工連携研究センター	④エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法の改善を検討する。 (教務部) ○自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通して、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進する。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討する。 (専攻科) ○鳥取大学医学部の教員を専攻科の非常勤講師として招き、医工連携協働教育を行う。 ○医療機関の医師・介護士を専攻科の講師として招き、医療福祉機器開発に関する実践的実験実習を行う。 (リベラルアーツセンター・教務部) ○リベラルアーツセンターを中心に新時代のジェネリクススキル養成のためのリベラルアーツ教育の内容を検討する。 ○リベラルアーツや自学・自習用の学生用図書を整備を行い、読書や文化活動等を推進する。 (リベラルアーツセンター) ○リベラルアーツに関する研究会を開催し、高専におけるリベラルアーツの意義について明確化する。 ○高専学会第23回年会「高専の教養教育—リベラルアーツが高専を面白くする—」を共催する。 (医工連携研究センター) ○平成28年度の鳥取大学医学部との包括連携協力に関する協定締結を受けて、双方が有する専門的な知見・情報の共有や連携により①地方創生にかかわる地域産業の振興と②地域協働教育による人材育成に貢献することを目的とした「医工連携研究センター」を学内に創設し、本事業の拠点とする。 ○「医工連携研究センター」の具体的な運用により、早期の成果獲得(医療介護機器開発・新規カリキュラム創設等)を推進する。	(教務部) ○臨岐の島のまちづくり活動等を通して学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進している。(4月～実施済) ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討した。(4月～実施済) (専攻科) ○鳥取大学医学部から3名の教員を非常勤講師として招き、1年後期の授業「複合社会技術論」で医工連携に関連する講義を行った。(11月実施済) ○生産システム工学専攻・物質工学専攻の2年前期で開講している「創造実験」で皆生温泉病院から医師、介護福祉士を講師として招き、医療福祉機器開発に関する実践的実験実習授業を行った。(4～8月実施済) (教務部・医工連携研究センター・リベラルアーツセンター) ○採択された「KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ」の「医工連携教育」および「リベラルアーツ教育」を具体的に実施するための方策を教務委員会を中心に検討し、30年度から全学科の4年生に医工連携科目を開講することにした。(12月実施済) (リベラルアーツセンター) ○3回の研究会を行った。(第1回12/15(金)参加者12名、第2回1/29(月)参加者11名、第3回3/9(金)参加者9名) ○2回の教育研究交流会を行った。(第1回12/26(火)参加者26名於津山高専、第2回3/24(土)参加者3名) ○4回の講演会を行った。(第1回12/4(月)参加者64名、第2回1/22(月)参加者92名、第3回2/20(火)参加者51名、第4回2/22(木)参加者60名) ○米子高専を会場にして、高専学会第23回年会「高専の教養教育—リベラルアーツが高専を面白くする—」を共催した。(9月実施済) ○学生が文化・教養について発表する「リベラルアーツ談話会」を企画し、4回実施した。(5/31、6/21、7/25、12/14各回20名弱の参加者) (医工連携研究センター) ○鳥取大学医学部との包括連携協力に関する協定締結を受けて、内部措置による医工連携研究センターを設置した。(5月実施済)また、医工連携研究センター開所式および第一回とつり医工連携研究フォーラムを鳥取大学医学部協力のもと、地域企業・行政・金融機関・中国地区高専関係者など100余名の参加者を招き盛大に開催し、大いに好評を博した。(9月実施済) ○地域協働教育による人材育成に関しては、医学部学生と本校専攻科学生との合同講義・合同ミーティングをこれまでに5回開催し、鳥取県における医工連携研究の意義や必要性、これからの可能性について大いに議論が深まった。(8・9・10・12・3月実施済) ○また、平成29年度後期に向け、新規カリキュラムの創設に係わる特別講義などの実施を構想し、これを年度内に複数回行った。(先ず第1回目は11/30に地元医療機器メーカーの社長に、年を跨いで1/22の第2回目に前鳥大医学部長を招いてトライアル講演を実施した。その後、第3回目は2/16に医学部教員による、第4回目は2/23に地元医療機器メーカーの技術者を招いてそれぞれに特別講演を実施し、いずれも満足度はほぼ90%以上を得られ好評を博した) ○平成30年度からの医工連携・ヒューマンデザイン教育の導入に関しては、対象を第4学年における学修単位1単位の選択科目とし、名称は「フロンティア工学セミナー」とした。(10月実施済)実施日程に関しては、夏期休業期間中(盆休み明け)などの集中講義形式として、担当教員は地元医療機器メーカー技術者や医学部教員を含む各学科および専攻科から選出された複数教員によるオムニバス方式の実施を計画することで、その負担を均等に配す予定とした。(12月計画策定済) ○医工連携研究センターの具体的な運用により、既に地元企業(MICOTOテクノロジー)と共同で医療機器開発を2件実施、外部資金を獲得(平成29年3月)した。今後も、医学部とのコラボテーマ等を立案して具体的な医療介護機器開発を推進していく。平成29年度末の医工連携関連の外部資金受入実績は、内訳として(共同研究:2件 1,274,000円、寄附金:1件 300,000円、科学研究費:2件 1,105,000円、合計:5件 2,679,000円)であった。 ○医工連携共同開発に係わる試作品の作成:学内公募を行い、医工連携研究に係わる4テーマを審査・選定し既に予算配分を行っている。(10月実施済)この4テーマは、平成30年度内の進捗状況把握のための中間報告講演と同年度末に向けた共同開発試作品の作成を義務づけている。 ○医工連携科目に係わる科目の教材開発・製作:対応可能な科目(例えば情報リテラシー→数理データサイエンス等)単元内で一部を実施することとし、5学科及び教養教育科に予算配分の後、教材開発に取り組んだ。(後期中に適宜実施済) ○医工連携研究センターのロゴデザインおよびホームページデザインを創出し(9月実施済)、これを使用して本校H.P.内に医工連携研究センターのリンクを立ち上げた。(3月実施済)	(教務部) ○KOSEN4.0イニシアティブへの対応やWebシラバスの完全実施がメインとなり、エンジニアリングデザインに関するFD研修会は開催できなかった。 (リベラルアーツセンター) ○ジェネリクススキルを養成するための教育内容が十分には明確化されていない。 ○学生に対するリベラルアーツの啓発を更に進めるべきである。 (医工連携研究センター) ○医学部は教員だけでなく学生も実習や国家試験に係わる夜間講義の実施があるなど非常に多忙であり、なかなかクロスオーバー受講制度等の導入・実施は現実的でないことが判明した。	(リベラルアーツセンター) ○講演会、研究会の実施方法、内容について検討する。 ○学生向けの手引きを来年度に向け計画する。 (医工連携研究センター) ○したがって、現在導入・実施している医学部教員の本校における連携講義実施は最低でも死守しながら、本校からは医学部の夏期・春期休業期間などの長期休業中に出前講義等を実施する方向性の模索・勘案が必要である。	計画を上回って達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>⑤各界有識者による本校の評議員会を組織・開催し、外部評価を実施するなど多角的な評価の取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。</p>	<p>運営会議 企画部</p>	<p>⑤多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。</p> <p>(運営会議) ○各界有識者により組織された評議員会を、原則として年一回以上開催し独自の外部評価を実施することで、PDCAサイクルを活用した教育の内部質保証や改善・向上に役立てる。 ○本校独自の自己点検・評価書の作成や点検・評価組織を核とした継続的且つ具体的な改善が実施できるよう各部署への取り組みを促す。</p> <p>(企画部) ○大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。また、この評価結果を校内ホームページや学校要覧その他に公開し、広報活動に努めることで本校の教育の質の高さや特色をPRする。 ○本校独自の自己点検・評価書を作成し、各部署ごとの内部相互評価および評議員会等による外部定量的評価を経ることで、教育の質の保証がなされるよう留意する。</p>	<p>(運営会議) ○評議員会を開催し、独自の外部評価を実施することで、PDCAサイクルを活用した教育の内部質保証や改善・向上に役立てた。(3月実施済) ○本校独自の自己点検書を作成し、運営会議メンバーによる相互評価を行い(10月実施済)、今後は、評議員会などの指摘事項なども踏まえて各部署に改善の取組を促した。(3月実施済)</p> <p>(企画部) ○平成26年度に受審した機関別認証評価の評価結果について、校内ホームページや学校要覧その他に公開し、広報活動に努めることで本校の教育の質の高さや特色をPRした。(6月実施済) ○「平成30年度から実施される(3巡目)高等専門学校機関別認証評価に関する説明会」(6月)に参加し、報告書をまとめ、運営会議・学科長会議において報告した。(6~7月実施済) また、次回の機関別認証評価でも求められているFD・SD委員会規則などの整備検討を進め、11月の運営会議で審議了承された。(10月実施済) ○平成26年度に受審した機関別認証評価および平成27年度監事監査で改善が指摘され、次回機関別認証評価においては重点評価項目となった「教育の内部質保証システム」を確立するため、平成28年度に各部署で取りまとめた「米子高専独自の自己点検・評価報告書」について、点検・評価委員会で評価方法の了解を得て(8月実施済)、点検・評価委員会メンバーによる内部評価を実施した。(8~9月実施) 内部評価の集計結果についても点検・評価委員会で確認を得た。(11~12月実施) なお、外部評価は評議員会メンバーにお願いし、評議員会(3/15)の場で外部評価結果の発表と評価コメントへの対応策を検討した。(3月実施済) 平成30年度には以上の内部評価と外部評価も含めて、「米子高専独自の自己点検・評価報告書」を冊子化する予定である。</p>			達成した。
<p>⑥インターンシップ情報の充実を図るとともに、可能な限り学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を推進する。また、地域産業界との連携による共同教育体制を検討する。</p>	<p>キャリア支援室</p>	<p>⑥学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。</p> <p>(キャリア支援室) ○インターンシップ情報データベースの充実を図る。 ○県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協力会等と連携し、地域産業と連携した共同教育を検討する。</p>	<p>(キャリア支援室) ○インターンシップ情報データベースを複製し、運用を開始した。(4月実施済) ○県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協力会等と連携し、地域産業と連携した共同教育として、キャリア講演会を9/29に1~5年生を対象に、10/20には5年生を対象に実施した。また、オープンファクトリー(地元企業見学会)を9/11~15の期間に実施し、地元企業45社を83人(延べ392人)の学生が訪れ見学した。</p>			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図る。</p> <p>鳥取県、近隣自治体、その他産業振興組織等との連携を強め、米子高専振興協会との連携活動や卒業生ネットワークの構築・運営を通して継続的に地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。</p>	<p>地域共同 テクノセンター 各学科</p>	<p>⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図り、地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。</p> <p>(地域共同テクノセンター) ○医工連携研究センターを中心に実施される医工連携関係の協働教育・共同研究の支援を行う。 ○企業技術者による最先端技術の講演・授業を実施する。 ○地域企業の課題を卒業研究・専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を行う。 ○鳥取県産業技術センターや山陰3Dものづくり情報交換会と連携して、高精度3Dプリンタを実験などの授業やロボコンなどの課外活動に活用するとともに、地元企業からの造形依頼に応える。</p> <p>(機械工学科) ○第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行う。</p> <p>(電気情報工学科) ○学科独自の同窓会を通じて、本校教職員と企業人材とのネットワークを深める。同窓会活動を継続させ、その内容を充実させる。</p> <p>(電子制御工学科) ○企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用することを検討する。</p> <p>(物質工学科) ○企業人材や外部の専門家を活用した授業の継続と充実を図る。</p> <p>(建築学科) ○地域の建築家、技術者、行政機関職員などを非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施する。 ○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行う。 ○部分的な科目でアクティブラーニング型授業形態の導入を行う。</p>	<p>(地域共同テクノセンター) ○榊エイ・アイ・シーとの共同研究に関わる秘密保持契約を締結した。(4月実施済) ○企業技術者による最先端技術の講演講義を4件実施した。(随時実施済) ○地域企業の課題を卒業研究・専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を11件実施した。 ○高精度3Dプリンタを授業や課外活動に活用するとともに、地元企業等からの造形依頼に応えた。(随時実施済) ・校内からの依頼 件数:14件、稼働時間:161時間36分 ・校外からの依頼 件数:2件、稼働時間:81時間 ・校外からの1件は、県立むきばんだ史跡公園から造形依頼であり、受託事業として実施した。(5月実施済)</p> <p>(機械工学科) ○機械工学科では第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニア(8名)を講師として招き講義を行った。(4~2月実施済)</p> <p>(電気情報工学科) ○平成26年度に立ち上げた学科独自の同窓会活動(E科サロン)については、本年度は7月に開催された。発足以来、毎年継続的に開催されている。電気・電気情報工学科の教職員や卒業生の気軽な情報交換(卒業生が勤務している企業等や本校の学生の進路状況等の情報を共有)の場として有効に機能している。 ○ネットワークを活用して、特別日課の講師を卒業生に依頼した。(9月実施済) 3E対象(47名):1件</p> <p>(電子制御工学科) ○企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用した。 (企業技術者等を8/26に公開講座講師として招聘(参加者15名)、また2/22に特別講義(参加者60名)の講師として活用した)</p> <p>(物質工学科) ○企業人材による授業を実施し、アンケートによる影響評価を行った。(11月実施済)</p> <p>(建築学科) ○地域の建築家(8名)、技術者(4名)、行政機関職員(1名)を非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施した。(随時実施済) ○5/26に非常勤講師交流会を実施し、授業評価アンケートに関するFDを実施した。 ○建築法規、建築生産の後期授業でアクティブラーニングを引き続き導入し、実施した。(随時実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>⑧国立高等専門学校機構本部と連動し、両技術科学大学との連携を推進し、研究・教育の分野で交流を図る。 鳥取大学と連携しながら、継続的に鳥取県西部地域における「知の拠点」となり得る高等教育機関を指向する。 理工系大学との授業及び共同研究の継続と充実を図る。 地元大学との連携を推進する。 大学進学者との懇談会を設け意見聴取を行う等、OBとの連携を通して大学教育との円滑な接続を目指す。 設立から50年経過した高専制度を社会環境の急激な変化に対応させるために、技科大や他高専との連携を軸に専攻科を充実させ、大学工学部卒と異なる個性を持つ技術者の教育並びに地域を中心とする産業界や地方公共団体と連携した研究活動を推進する。</p>	<p>教務部 専攻科 各学科</p>	<p>⑧理工系大学との間の連携を検討し、実施する。 (教務部) ○国立高等専門学校機構本部と連動し、長岡技術科学大学との連携を推進する。 (専攻科) ○鳥取大学医学部との連携協定を活用して、鳥取大学医学部の教員を専攻科の非常勤講師として招き、医工連携協働教育を行う。専攻科から鳥取大学医学部大学院への進学を支援する。 (機械工学科) ○第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行う。理工系大学との共同研究を行う。 (電気情報工学科) ○イノベーション指向人材育成カリキュラムの内容を検討する。 ○人脈を通して、大学在校生および大学教員等との懇談会等の実現を目指す。 (電子制御工学科) ○技科大等との教育・研究の分野での交流会への参加を検討する。 ○医工連携を推進するため、地元企業等との共同研究の可能性について検討する。 (物質工学科) ○鳥取大学医学部との医工連携を推進するため、共同研究や専攻科から同医学部大学院への進学を検討する。 ○「三機関が連携・協働した教育改革」における共同研究プロジェクト等を通じて連携を推進する。 (建築学科) ○9月頃に呉高専と構造系研究交流会を行い、専攻科生・本科生による研究紹介を行い、各校の引率教員が質疑を行い、研究の醸成を行う。 ○豊橋技科大の松本教員を中心とした、呉・米子の共同研究を行う。 ○鳥取県建築交流会に参加し、地域の高等教育機関における課題について意見交換を行う。</p>	<p>(教務部) ○国立高等専門学校機構本部と連動し、長岡技術科学大学との連携を推進した。(4月～実施済) (専攻科) ○鳥取大学医学部から3名の教員を非常勤講師として招き、1年後期の授業「複合社会技術論」で医工連携に関連する講義を行った。(11月実施済) (機械工学科) ○第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行った。理工系大学との共同研究を行った。 具体的な共同研究は以下の通り。 ・潜熱蓄熱に関する研究(共同研究大学:岡山大学、北見工業大学、佐賀大学)、担当教員:森田慎一教授。 ・テイラー・ディーン流れに関する研究、ヘリカル管内流に関する研究(共同研究大学:岡山大学 大学院 自然科学研究科 産業創成工学専攻 流体力学研究室 柳瀬真一郎教授)、担当教員:早水庸隆准教授 ・運動良好精子分離装置に関する研究(共同研究大学:横浜国立大学 大学院 工学研究院 システムの創生部門/システムのデザイン分野 百武研究室 百武徹准教授)、担当教員:早水庸隆准教授 ・波力発電用直線翼垂直軸タービンに関する研究(共同研究大学:佐賀大学海洋エネルギー研究センター 木上洋一教授)、担当教員:早水庸隆准教授 (電気情報工学科) ○三機関連携による、イノベーション指向人材育成カリキュラムの開発準備のため、豊橋技大及び長岡技大との交流が進行中である。(随時実施済) ○大学との交流の一環として、岡山大から講師の教員を招き、出前講義を実施した。(1月実施済) 岡山大講師:4E対象(37名) 講演会終了後は、本校教員と講師との間で教育研究に関する情報交換をおこなった。 (電子制御工学科) ○技科大等との教育・研究の分野での交流会に参加した。(12/25、26に豊橋技科大との交流会に1名が参加した) ○1月より地元企業との医工連携に関する共同研究の具体的実施方法について検討を進めている。(1月～実施済) (物質工学科) ○認定NPO法人自然再生センターとの共同研究において鳥根大学と連携を実施中である。(その都度実施済) ○広島大学生物生産学部付属竹原ステーションにて物質工学科の学生が、広島大学生物生産学部の教員の指導のもと体験型の学習「水族セミナー」を受講した。(7月実施済) ○豊橋技術科学大学との共同研究を実施中である。(その都度実施済) ○(独)酒類総合研究所との共同研究において、広島大学との連携を実施中である。(その都度実施済) (建築学科) ○呉高専との構造系研究交流会を9/8～9に行った。(9/8にプレデザコン、9/9に発表質疑を実施済) ○豊橋技科大、呉高専との共同研究について、昨年度の論文発表の成果に基づき、今後の研究・解析について協議を行った。(12月実施済) ○鳥取県建築交流会は今年度開催がなかったが、日本建築学会鳥取支所主催の東光園文化財登録記念シンポジウムに参加し、教育の拠点として活用する方策について意見交換を行った。(11月実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
	⑨ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。	教務部 各学科・科 情報管理室	<p>⑨校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。</p> <p>(教務部・情報管理室) ○ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進める。</p> <p>(教務部) ○CALL教室の教育効果を増すためソフトウェアの更新を計画するなど、e-ラーニングの利用などを含めて、ICTを活用した教育環境の整備を継続する。</p> <p>(機械工学科) ○材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てる。</p> <p>(電気情報工学科) ○校内ネットワークによる配信を目的とした講義や実験資料のデジタル化及びその収集・整理の効率化について検討する。</p> <p>(電子制御工学科) ○e-LearningシステムやICTの利用状況を調査し、改善及び推進を検討する。 ○CADソフトの活用拡大を図る。</p> <p>(物質工学科) ○ICTを活用した教育システムの検討に基づき、教材の導入及び実施するとともに、利用状況を調査する。</p> <p>(建築学科) ○建築用CADの自学自習環境整備を行う。 ○部分的な科目(建築法規、生産など)でe-ラーニングを導入する。</p> <p>(教養教育科) ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続する。</p>	<p>(教務部・情報管理室) ○ICT活用教育に必要な校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進めた。 (随時実施済) ○高専機構統一ネットワークシステムへの移行作業を実施した。(9月実施済)</p> <p>(教務部) ○採択された「KOSEN(高専)4.0」イニシアティブの競争的資金を活用して、教室へのプロジェクター整備などのICT教育環境整備を行った。(10月～実施済) ○学習到達度試験(数学・物理)対策として、e-ラーニング(CBT)を利用したり、電子制御工学科ではデジタル回路、電子デバイスなどでCBTを授業に採用し、電子制御工学科や物質工学科ではレポート提出等にMS(Blackboard他)を取り入れて(26年度より)、さらに、本科1年生が数学と化学の学習到達度試験のCBTトライアルに参加した。(10月実施済)</p> <p>(機械工学科) ○材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てた。(随時実施済)</p> <p>(電気情報工学科) ○これまでにデジタル化している講義や実験資料を分析し、今後の効率的なデジタル化についての方法を検討した。(9月実施済)</p> <p>(電子制御工学科) ○e-Learningシステムの利用状況を調査し、改善を検討した。(8月調査実施済・改善としてBlackBoardやOffice365の授業での活用拡大及びタブレット端末、スマートフォンを授業に活用)○CADソフトの充実と活用を図っている。(4月～設計製図、回路系授業、実験実習などで活用)</p> <p>(物質工学科) ○3年生の情報科学IIでは、化学構造式図画ソフトの活用を行っている。(その都度実施済) ○「情報工学II」においてe-ラーニングプラットフォームmoodleを使用し、課題の提示や解答の収集、授業資料の配付などに利用している。(その都度実施済) ○「化学」などのBlackboardを用いて、プリント配布や課題の提出を行っている。(その都度実施済)</p> <p>(建築学科) ○H29年～H31年の3年で、CAD室の整備を行うこととした。H29年度にはCADソフト最新バージョンの動作する推奨スペックのパソコンを7台購入した。CAD室整備の動向、およびCADソフトの動向について調査を行った。CADソフトの動作環境および他高専での使用CADソフトの情報を収集した。(随時実施済) ○建築法規、建築生産の後期授業において、引き続きe-ラーニングを導入した。(随時実施済)</p> <p>(教養教育科) ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続した。 (随時実施済)</p>			達成した。
(5) 学生支援・生活支援等	①メンタルヘルスに係る知識の普及のための講習会等を実施し、学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。	学生部 学生相談室	<p>①メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。</p> <p>(学生部・学生相談室) ○メンタルヘルス向上のための講習会を実施する。 ○就学支援が必要な可能性のある新入生の保護者との事前相談を実施する。</p>	<p>(学生部・学生相談室) ○メンタルヘルス向上のための講習会を実施した。(6月:1年生、7月:3年生、1月:2年生実施済) ○就学支援が必要な可能性のある新入生の保護者との事前相談を実施した。(3月実施済:3名) ○就学支援が必要な可能性のある新入生の事前相談を実施した。(4月実施済:4名) ○心と体の健康調査を実施し(6月実施済)、その結果をもとに臨床心理士による教職員FDを実施した。(9月実施済) ○保護者向け学生アンケートを実施した。(9～10月実施済・回収率65%) ○メンタルヘルス向上のための講演会を実施した。(3月実施済)</p>			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>②アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。</p> <p>鳥取県東中部、中山間部、県外からの入学志願者及び優秀な入学者の確保のために、寄宿舎の受け入れ体制を再検討するとともに、入寮者の増加、女子留学生の増加、多様な学生の入寮、及び設備の老朽化を踏まえた計画的な整備を図る。</p> <p>寄宿舎等施設の現況、利用状況等の実態を把握し、計画的な整備を推進する。</p>	<p>運営会議</p> <p>寮務部</p> <p>図書館</p> <p>事務部</p>	<p>②図書館の充実や寄宿舎の改修など利用実態の分析を踏まえ計画的な整備を図る。</p> <p>(運営会議)</p> <p>○アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の調査・分析状況を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。</p> <p>○留学生を含む入寮生増加に伴う寄宿舎の充実・改修などについて、関連部署と検討・協議を行いその結果を今後の整備計画策定に反映させる。</p> <p>(寮務部)</p> <p>○施設の老朽化部分に対し、営繕工事等の予算要求を継続して行う。</p> <p>○将来構想検討委員会での検討内容等を助案し、将来の学寮整備計画の具体案を策定する。</p> <p>(図書館)</p> <p>図書館の談話コーナー(交流プラザ)、リベラルアーツコーナーの活用を図る。</p> <p>(財務)</p> <p>○今後の留学生総数や女子留学生・女子寮生の増加を踏まえて、予算要求に向けて関係各所と連携を図り、実現可能な計画を検討する。</p>	<p>(運営会議)</p> <p>○アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図っており、具体的には、武道場改修工事や管理棟・講義棟の屋上防水改修工事を行った。(12月～竣工済)</p> <p>(寮務部)</p> <p>○平成30年度から寮内ネットワークを有線化し、その管理運営を外委託するように環境整備を進めた。(3月実施済)</p> <p>○寮生会役員会、寮生総会、学年別集会などであがった改善要求に対し、実施可能なものから対応した。例)屋内駐輪場の整備、傘立ての設置、洗濯機・乾燥機の更新、机尾・ロッカーの更新(適宜実施済)</p> <p>○女子寮の外周赤外線センサ及び指紋認証システムを更新した。(9月、3月実施済)</p> <p>○西寮補食室のタイル床の張り替えを行った。(1月実施済)</p> <p>○将来構想検討委員会での検討内容、および他高専の情報を集約し、今後の寮の整備計画を策定した。(3月実施済)</p> <p>(図書館)</p> <p>○展示用設備を整備し、談話コーナー(交流プラザ)で作品展示ができるようにした。(11月実施済)また、11/7(火)～12(日)、市民グループとの共催で植物画の展示会を実施した。</p> <p>○「学生・教職員アンケート」の「学習・生活環境に関するアンケート結果」における学習参考書の更新・拡充の要望に対しては、各科より学習参考書の推薦を募り、機械工学科20冊、電気情報工学科20冊、電子制御工学科42冊、物質工学科11冊、建築学科57冊、教養教育科63冊購入した。(随時実施済)</p> <p>○読書の習慣付けや図書館に目を向かせる取組を行った。</p> <p>・定期試験前1週間及び期間中の日曜祝日開館した。(6/4図書館閲覧室入室者延べ数40名、6/11同65名、7/30同46名、8/6同55名、11/19同50名、11/23同39名、11/26同19名、2/4同16名、2/11同42名、2/12同38名、平成27年度から行っている。)</p> <p>・ビブリオバトルを開催した。(6/20発表者4名投票者15名実施済、平成27年度から行っており、学生から好評である。)</p> <p>・各クラスの学生図書委員を鳥取県立図書館へ派遣し、図書館の利用方法等の研修を実施する予定していたが、県立図書館との日程がかみ合わず中止した。(平成27年度から行っている。)</p> <p>・県立図書館コーナーを設置した。(10/6～2か月間335冊)所蔵が少ないジャンルを中心に、県立図書館から相互貸借で借りた図書でコーナーを設置し、貸出も行っている。(平成26年度から行っており、利用者から好評である。貸出冊数は58冊)</p> <p>・国立女性教育会館コーナーを設置した。(5月から8月までの3ヶ月間50冊、男女共同参画を主なテーマとして図書を貸し出すサービス、貸出冊数は6冊)</p> <p>・読書会を本年6回開催。5/18 5名参加、6/28 6名参加、7/19 4名参加、10/10 4名参加、12/19 4名参加、1/23 5名参加、この読書会は、特定の本をテーマとして参加者が事前に読んでおき、本の内容について参加者同士で自由にディスカッションする方式である。平成27年度から行っている。)</p> <p>(財務)</p> <p>○今後の留学生総数や女子留学生・女子寮生の増加を考慮した寮務部での整備計画策定結果を踏まえて、関連部署と検討・協議を行い今後の寮の整備計画を検討した。(11月～実施済)</p> <p>○女子寮の防犯対策として老朽化した赤外線センサーを更新して万全を期した。(9月実施済)</p> <p>○女子寮生活環境改善のために老朽化した電気錠システムを更新した。(3月実施済)</p>	<p>(寮務部)</p> <p>○施設・設備の老朽化が著しく、男子寮浴室ボイラーの不調、女子寮地下排水設備の詰まりなど、不具合が次々に生じており、その都度対応に追われている。</p> <p>(図書館)</p> <p>○読書の習慣付けや図書館に目を向かせる取組に関し、さらに教科との連携をはかるべきである。</p> <p>○ビブリオバトルなど学生参加の活動により広がりをもたせるべきである。</p>	<p>(寮務部)</p> <p>○整備計画に基づき、財務と連携して施設改修や設備更新の予算要求を継続して行う。</p> <p>(図書館)</p> <p>○図書館を利用する授業の相談・依頼を行う。</p> <p>○周知方法、実施方法を検討する。</p>	<p>達成した。</p>
<p>③日本学生支援機構、及び各種財団・民間の奨学金制度等の学生支援に係る情報提供を行う。</p>	<p>学生部</p>	<p>③各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。</p> <p>(学生部)</p> <p>○日本学生支援機構、および各種財団・民間の奨学金制度の情報提供を行う。</p>	<p>(学生部)</p> <p>○日本学生支援機構、および各種財団・民間の奨学金制度の情報提供を行った。(4月～実施済)</p> <p>○授業料減免制度の情報提供を行った。(4月・10月実施済)</p> <p>○特に平成28年10月に発生した鳥取県中部地震で被災した地域の世帯には、授業料免除の震災特例または震災における学力免除による申請が出来ることの情報提供を行った。(4月実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
	④企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を含めたキャリア支援を充実させる。	キャリア支援室	④企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を含めたキャリア支援を充実させる。 (キャリア支援室) ○求人データベースの充実を図る。 ○企業見学会、大学・大学院説明会や進路セミナーを開催する。	(キャリア支援室) ○求人データベースを作製し、運用を開始した。(3月実施済) ○企業見学会は、オープンファクトリーとして9/11～15の期間に実施し、企業45社を83人(延べ392人)の学生が地元企業を訪問見学した。企業・大学・大学院説明会として、1/13に「米子高専生のための進路研究セミナー」を開催し、260ブース(企業247社、大学及び大学院11ブース・地元自治体2団体)の出展があり、本校の本科3・4年生、専攻科1年生及び保護者の計339名が参加した。			達成した。
(6) 教育環境の整備・活用	①-1 施設・設備の点検評価を行い、施設マネジメントの充実を図ることで、実験・実習や教育用の設備の更新、校内の環境保全、ユニバーサルデザインの導入、環境に配慮した施設・設備のメンテナンスを計画的且つ的確に実施し、安全で快適な教育環境の整備を推進する。	運営会議 事務部 インフラ整備検討委員会	①-1施設・設備の点検・評価を行い、施設マネジメントの充実を図る。 (運営会議・インフラ整備検討委員会・財務) ○地域共同テクノセンターエリア内に新たに「医工連携研究センター」を設立し、本センター活用により地方創生にかかわる地域産業の振興と地域協働教育による人材育成に資する学内環境を整備する。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の持続的・計画的な整備・充実を図る。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な視点に立った計画的な施設整備を図る。 ○アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備計画を検討する。 ○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討する。 (財務) ○施設/パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○企画部主導で実施されている教職員へのアンケートを活用し、安全で快適な教育環境に向けて整備を行う。	(運営会議・インフラ整備検討委員会・財務) ○地域共同テクノセンターエリア内に「医工連携研究センター」を設置し、地方創生にかかわる地域産業の振興と地域協働教育による人材育成に資する学内環境を整備した。(9月実施済) ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図った。(5月～実施済) ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な視点に立った計画的な施設の整備を図った。(8月～実施済) ○英会話能力や専門教育に資するアクティブラーニング等の学習環境充実を図るためCALL教室等の施設整備計画を検討した。(4月～実施済) ○施設/パトロールにおいて、安全性、老朽等注意を要すると診断した箇所について、都度修繕を行った。(4月～実施済) (学生部) ○昨年度の学生アンケート結果において、グラウンドの除草に対する意見が多くあったことを受け、学生部において対応を検討した。(実施済) (財務) ○安全管理に関する施設/パトロールは継続的に実施した。(毎月1回実施済) ○施設整備計画に基づくエコ・バリアフリー化を引き続き検討した。(随時実施済)	(財務) ○施設/パトロールにおいて、都度修繕を行っているがその他経年劣化しているものも見受けられ、引き続き整備計画を検討する。	(財務) ○企画部で実施されている教職員へのアンケートの活用及び施設/パトロールの実施などにより、修繕及びスペースの有効活用を検討する。	達成した。
	①-2 安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○建物の用途変更も踏まえ、必要な耐震化を推進する。	インフラ整備検討委員会 事務部	①-2安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 (インフラ整備検討委員会) ○安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○建物の用途変更も踏まえ、耐震化の必要性を検討し、必要に応じて予算要求を行う。 (財務) ○施設/パトロールを中心に安全衛生管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○コストを含めて実施可能な整備を迅速に行う。	(インフラ整備検討委員会) ○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討した。(6月～実施済) (財務) ○安全管理に関する施設/パトロールは継続的に実施した。(毎月1回実施済) ○施設整備計画に基づくエコ・バリアフリー化を引き続き検討した。(随時実施済)	(財務) ○平成29年度に実施した施設/パトロールにおいて、安全性、老朽等注意を要すると診断した箇所について、都度修繕を行っているがその他経年劣化しているものが多数見受けられる。	(財務) ○財務部門において、コストも含めた包括的な営繕計画を検討する。	達成した。
	①-3 PCB廃棄物の保管・管理に万全を期する。	安全衛生委員会 事務部	①-3PCB廃棄物の計画的な処理を実施する。 (安全衛生委員会・財務) ○PCB廃棄物の保管・管理に万全を期する。	(安全衛生委員会・財務) ○PCB廃棄物の計画的な処理を行い、保管・管理に万全を期した。 ・低濃度PCBについては、2/9に業者が持ち帰り、2/15最終処分を完了した。 ・高濃度PCBについては、引き続きPCB処分を開始するまでの保管・管理に万全を期する。			計画を上回って達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
	②専門学科分野ごとの安全管理講習会を実施する。 安全管理のための機構等主催の講習会に積極的に参加させる。	安全衛生委員会	②安全管理のための講習会に積極的に参加する。 (安全衛生委員会) ○AED等の講習会を開催する。 ○安全管理講習会等に参加する。 ○機構で作成する実験実習安全必携を配付し、安全意識の啓発に努める。	(安全衛生委員会) ○AED等の講習会を開催した。 「外傷に対する手当てとAEDを用いた救命措置講習会」を1/22(月)に開催し、14名の教職員が受講した。 ○安全管理講習会等に参加した。 ・10/26(木)～27(金)に開催された「中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会」(山口大)へ、総務課長、総務係長が参加した。 ・12/14(木)に開催された「リスクアセスメント担当者養成講習会」(米子食品会館)へ、総務係長が参加した。 ○高専機構で発行する「実験実習安全必携」を、新入学生及び新任教職員へ配付し(4月実施済)、年度途中で採用となった教職員についても随時配付のうえ安全意識の啓発に努めた。	(安全衛生委員会) ○AED等の講習会について、参加者が固定化の傾向にあるため、参加者が固定化しないための対策が必要である。 ○高専機構で発行する「実験実習安全必携」について、内容が古く、現状に即した内容に改正する必要がある。	(安全衛生委員会) ○AED等の講習会 ・各学科等からの参加人数を割りあてるなど、具体的な対策を検討する。 ・教職員が参加しやすい開催時期を検討する。	計画を上回って達成した。
	③男女共同参画や理系女子学生増(特に機械、電気・電子系学科)に向けた取り組みを積極的に推進する。 女子学生や女性教職員の生活・就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。 女性教員比率向上のための取組を推進する。	運営会議 事務部	③男女共同参画に向けた取り組みを推進する。 (運営会議) ○男女共同参画や理系女子学生増(特に機械、電気・電子系学科)に向けた取り組みを積極的に推進する。 ○教員公募要項に、女性教員を優先する旨の記載をする。 ○仕事とライフイベントの両立支援(ワークライフバランス)のための情報を提供する。 ○男女共同参画を推進するための機能的な組織づくり(男女共同参画推進室の設置など)を行う。 (運営会議・財務) ○女子学生や女性教職員の生活・就業環境改善のため、男女共同参画推進室の設置と具体的運用により、女性教職員の意見を聴取しながら、更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。	(運営会議) ○「高専女子フォーラムin関西2017」に参加(2名)し、高専女子学生の技術や魅力を発信した。(12月実施済) ○全ての教員公募要項に女性教員を積極的に募集する旨を記載した。(5月～実施済) ○男女共同参画関連規則を整備するとともに推進室を設置し、機能的な組織作りを行った。(11月実施済) ○仕事とライフイベントの両立支援(ワークライフバランス)のための情報を全教職員に対し提供した。(4月～実施済) (運営会議・財務) ○女性教職員の就業環境改善のため、男女共同参画推進室(11月設置)と連携し、女性教職員の意見を聴取し女性用トイレの整備を行った。(2月実施済)	(財務) ○女性教職員の就業環境改善のための整備は、トイレ等衛生面に対する措置を含めて引き続き検討する必要がある。	(財務) ○男女共同参画推進室と連携しトイレ等の設備の整備を進める。	達成した。
2・研究や社会連携に関する事項	①全国規模の研究シーズ発表の奨励及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに獲得率向上に向けた取り組みを実施する。 各種の連携イベントに参加する。 全国規模のフェアに出展・参加する。 科研費の獲得に向けた活動を活性化させる。	運営会議 地域共同 テクノセンター	①全国規模のシーズ発表の奨励及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに獲得に向けた取り組みを実施する。 (運営会議) ○全国規模の研究シーズ発表の奨励、及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに、FDやプレレビューなど外部資金獲得率の向上に資する取り組みを実施する。 (地域共同テクノセンター) ○全国高専フォーラム、とっとり産業技術フェアなどへ参加し、研究成果や技術シーズを発表する。 ○JUSTイノベーション・ジャパン2017-大学見本市など、全国規模のフェアへ研究成果や技術シーズを出展する。 ○科研費に関するFD研修会や、申請者によるグループディスカッション、申請書の事前レビュー、フォローアップを実施する。 ○JST等の外部資金に関する説明会を実施する。	(運営会議) ○科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに、これに関するFD研修会を実施した。(8月実施済) (地域共同テクノセンター) ○全国高専フォーラム、とっとり産業技術フェアなどへ参加し、研究成果や技術シーズを発表した。 ・全国高専フォーラム(長岡技術科学大学) (8月参加済) ・とっとり産業技術フェア(米子コンベンションセンター)にて、ロボコン、Pepperの実演、ファインパブル水を用いた魚の飼育およびパン製作を行った。(9月参加済) ○JSTイノベーション・ジャパン2017-大学見本市など、全国規模のフェアへ研究成果や技術シーズを出展した。 ・イノベーション・ジャパン2017において、物質工学科・谷藤教員がテーマ「炭酸水・尿素を直接燃料とした燃料電池」で出展(8月実施済) ○科研費に関するFD研修会や、申請者によるグループディスカッションを実施した。 ・FD研修会(講師:長岡技術科学大学 齋藤秀俊教授、参加人数33名)(8月実施済) ・申請者によるグループディスカッションを4回実施し、計15人が参加した。(8～10月実施済) ○JST等の外部資金に関する説明会として、JSTマッチングプランナーによる公募説明会を実施した。(4月実施済、2月にはGl-netを使って実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>②産学官連携活動の強化・推進を図る。 各種のフェアやメディアを通じた情報発信を行う。</p>	<p>地域共同 テクノセンター</p>	<p>②産学官連携活動の強化・推進を図るとともに、各種のフェアやメディアを通じた情報発信を行う。</p> <p>(地域共同テクノセンター) ○米子高専振興協会会員企業に対し、満足度を向上させるための方策を実施する。 ○産学連携コーディネータを配置し、鳥取大学医学部等との医工連携等につながる企業ニーズの掘り起こしや教員シーズとのマッチングを図る。 ○山陰合同銀行を始めとする「包括連携協力協定」締結先との連携事業・連携研究の充実、拡大を図る。 ○鳥取大学COC+プロジェクト等との連携により、地域の「地方創生」事業に積極的に関わる。 ○テクノセンター鳥取オフィスを拠点とし、鳥取県の東・中部地区における産学連携活動を展開する。 ○MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)主催の「テーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会」に参加し、研究成果や技術シーズを発表する。</p>	<p>(地域共同テクノセンター) ○米子高専振興協会会員企業に対し、満足度を向上させるための方策に取り組んだ。 ・総会を開催した(リベラルアーツ講演、ギネス記録達成展示など、参加人数132名)。(7月実施済) ・東中部地区企業見学会を開催した(株式会社機械製作所とプリリアントアソシエイツ様の見学、学校の近況報告、参加人数50名)。(9月実施済) ・特別講演会を実施した(テーマ:「変革の時代を勝ち抜くための人材育成」、講師:株NTTデータユニバーシティ取締役研修事業部長 角正樹氏、参加人数89名)。(11月実施済) ・西部地区企業見学会を実施した(大山ロイヤルホテルおよびファミリーイナダ株大工場の見学、参加人数45名)。(3月実施済) ・新規事業「人と技術を育てる」(BeYONDの会)を立ち上げ、今年度は「人を育てる」をテーマに3回の懇談会を実施した。会員企業8社から8名の参加者があった。(12~3月実施済) ・企業ガイドブック2018を発行した(発行部数:1000部、配布先等:本校3・4年生、専攻科1年生、教職員、会員企業など)。(11月実施済) ・会員数が前年度末の150社から168社となった。 ○産学連携コーディネータを配置し、鳥取大学医学部等との医工連携等につながる企業ニーズの掘り起こしや教員シーズとのマッチングを図った。 ・株MICOTOテクノロジーからの「人体内臓のステレオ写真(映像)による3D復元」に関する技術相談に対応した。(7月実施済) ・株MICOTOテクノロジーからの「ダビンチのシュミレーターの3Dコントローラーの座標計算について」についての技術相談に対応した。(11月実施済) ・大山ロイヤルホテルからの「業務の省力化について」の技術相談に対応し共同研究につながった。(6月実施済) ・日立金属精錬金研究所から共同研究申入れがあり教員につないだ。(3月実施済) ○山陰合同銀行を始めとする「包括連携協力協定」締結先との連携事業・連携研究の充実、拡大を図った。 ・山陰合同銀行銀鳥取営業部において本校のPR展示を行った。(6~7月実施済) ・山陰合同銀行境港支店において本校のPR展示を行った。(11~12月実施済) ・大山町と包括連携協力協定を締結した。(8月実施済) ・大山町と平成30年度の取組みについて連携会議を実施した。(1月実施済) ○鳥取大学COC+プロジェクト等との連携により、地域の「地方創生」事業に積極的に取り組んだ。 ・COC+の遠隔講義システムを利用して、他機関の講演やセミナーを受講するとともに、本校で開催した講演やセミナーを発信した。 COC+技術セミナー「iOSアプリケーション開発入門」受講生4名(12月実施済) COC+技術セミナー「RaspberryPiとOpenCVで学ぶ画像処理とモーションコントロール入門」受講生6名(1月実施済) ・総務省「若者を対象としたIoT機器の適正な電波利用を図るための人材育成方策に関する調査研究」鳥取運営委員会へ参画し、Web x IoTマイカーズチャレンジ事業に学生3名を参加させた。ハッカソンでは最優秀賞を受賞した。(11~12月実施済) ・鳥取大学の平成29年度ジュニアドクター育成塾プロジェクトに参画し、環境基礎プログラムを実施した。参加人数35名(1月実施済) ・平成30年度ジュニアドクター育成塾プロジェクトへの申請を行った。(2月実施済) ・鳥取短期大学が文部科学省に申請した「とっとりプラットフォーム5+α」へ参画した。(10~3月実施済) ○テクノセンター鳥取オフィスを拠点とし、産学連携コーディネーターを1名配置し、産学官連携活動を実施した。(4~3月実施済) ○MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)主催の「テーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会」に参加し、研究成果や技術シーズを発表した。(7月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>③知的財産活動を推進する。 各種のマッチングシステムを活用し、発明案件の知財化を推進する。</p>	<p>地域共同 テクノセンター</p>	<p>③知的財産活動を推進し、発明案件の知財化を推進する。</p> <p>(地域共同テクノセンター) ○知的財産に関するFD研修会を実施する。 ○産学連携コーディネータによる知財化活動のノウハウを収集する。</p>	<p>(地域共同テクノセンター) ○知的財産に関するFD研修会を実施した(テーマ:「高専における知財活動について」、講師:中国経済産業局 産業技術連携課 知的財産室 知的財産係長 鎌田 雄志氏、参加人数21名)。(3月実施済) ○産学連携コーディネータによる知財化活動のノウハウを「2017知財ビジネスマッチング会 in とっとり」に参加して収集した。(7月実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
④シーズ集と活動報告を発行する。 研究者データベースへの登録・データ更新を推進する。 ホームページやメディアを活用した情報発信を推進する。	地域共同 テクノセンター	④シーズ集やホームページ・メディアを活用した情報発信を推進する。 (地域共同テクノセンター) ○「米子高専シーズ集2017」「医工連携シーズ集2017」「平成28年度テクノセンター活動報告」を発行する。 ○JSTの“researchmap”への登録と内容の更新を校内に啓発する。 ○ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介した情報発信を行う。	(地域共同テクノセンター) ○「米子高専シーズ集2017」「医工連携シーズ集2017」「平成28年度テクノセンター活動報告」を発行した(発行部数:シーズ集800部、医工シーズ100部、活動報告800部、配布先:教職員・企業)。(5~7月実施済) ○JSTの“researchmap”への登録と内容の更新について、新規採用者に対しては4月に、全教員に対しては10月に周知した。 ○ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介した情報発信を行った。 ・DARAZFMで出前講座・公開講座をPR(5月実施済) ・各種講座、振興協会行事など、メディアに対してその都度取材依頼した。(4~3月実施済)			達成した。
⑤公開講座、出前講座に地域ニーズに即したテーマを設定する。 満足度アンケート調査を行い、内容や実施方法の改善を図る。	地域共同 テクノセンター	⑤公開講座、出前講座に地域ニーズに即したテーマを設定し、満足度の向上を図る。 (地域共同テクノセンター) ○公開講座・出前講座・連携講座等を実施するとともに、その内容の刷新に努める。 ○各種講座においてアンケート調査を実施し、講座内容の改善と満足度の向上に役立てる。 ○アンケート調査で把握した地域ニーズを実践するための検討を行う。 ○外部機関との連携を図り、実施内容の重複回避や分担実施に努める。	(地域共同テクノセンター) ○公開講座・出前講座・連携講座等を実施した。(4~3月実施済) ・前期開講実績 出前講座59件(28年度62件) 公開講座21講座(28年度22講座) 連携講座7講座(28年度11講座) ・後期開講実績 出前講座15件(28年度15件) 公開講座3講座(28年度2講座) 連携講座12講座(28年度7講座) ○各種講座においてアンケート調査を実施し、講座内容の改善と満足度の向上に役立ており、アンケート結果は教員会議で公表した。(11月実施済) ○アンケート調査で把握した地域ニーズを実践するための検討を行った。(4~3月実施済) ○鳥取県教育委員会が県内の高等教育機関と連携して「鳥取学」の講座を実施しており、本校からは平成29年度第4回文化セミナー(建築学科 稲田祐二教授「過去の建物被害から学ぶー来たるべき地震に備えるー」、参加人数17名)をこれに充てて実施した。(11月実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>3・国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 社会のグローバル化に 대응できる人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。</p> <p>海外の大学等高等教育研究機関との国際交流及び学術交流などの交流協定締結を図り、協定に基づく交流プログラムの企画・試行を行う</p> <p>国際協力機関（JICA、JICEなど）などが行う海外との交流事業への参加を促す。</p>	<p>国際交流 教務部 専攻科</p>	<p>①-1社会のグローバル化に 対応できる人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。</p> <p>(国際交流) ○学校の国際化やグローバル教育推進のため、 ・海外、特に地域の独自性や優位性を活かし隣国・韓国の大学等高等教育研究機関との国際交流及び学術交流などの交流協定締結を図り、協定に基づく交流プログラムの企画・実施を推進する。 ・国立高専機構、国際協力機関（JICA、JICEなど）などが行う海外との交流事業への参加を促す。 ・他高専との連携で英語圏での英語研修を実施する。</p> <p>(教務部) ○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施する。</p> <p>(教務部・専攻科) ○在校生の海外発表や海外語学研修を奨励する。 ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励する。</p>	<p>(国際交流) ○協定校・南ソウル大学校、交流協議中の群山大学校との間で、海外研修旅行（9月・派遣学生12名）、海外インターンシップ（9月・派遣学生4名）を実施した。 ○韓国・群山大学校との間で、協定締結を視野に入れた交流協議を継続（4回）し、国際交流協定の締結が運営会議で認められ（10月）、協定を締結（12月）した。 ○日本学生支援機構が実施するトビタテ！留学JAPAN高校生コース第3期（9月・派遣学生1名）に参加した。 ○国立高専機構が実施するJSTS2017（5月）、ISTS2017（8月・派遣学生1名）に参加した。 ○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが実施する第4ブロック英語研修（8月・派遣学生7名・国内）、マラ工科大学語学研修（8～9月・派遣学生1名）、合同研究発表会（12月・派遣学生6名）、シンガポール科学技術研修（3月・派遣学生2名）に参加した。 ○松江高専・徳山高専との連携で、ニュージーランド英語研修（8～9月・派遣学生1名）を実施した。 ○「海洋漂着ゴミを通して日韓の環境問題を考える研修」（南ソウル大学校・群山大学校・環境研修）（7月・受入学生25名）を鳥取大学と連携し実施した。 ○国際協力機関（JICA、JICE）などが行う海外交流事業や各種団体（AFS、YFU）が行う海外研修・海外留学プログラムに関しては、ポスター掲示と全教員へのメール展開を中心に、日本学生支援機構が実施するトビタテ！留学JAPANでは、GI-netによる校内説明会、参加経験者（エバンジェリスト）による広報活動を通じた追加情報提供を行った。（随時実施済）</p> <p>(教務部) ○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施した。（1年生対象に11月実施済） ○国際交流を推進する方策の一つとして、海外インターンシップや海外研修への参加に対して一定の条件を満たした学生については単位化することを教務委員会で検討し、平成30年度から実施することになった。（12月実施済）</p> <p>(教務部・専攻科) ○在校生の各種海外発表や海外語学研修を奨励し、マラ工科大学語学研修に本科5年生1名が参加（8～9月）、徳山・松江・米子高専によるニュージーランド語学研修に本科2年生1名が参加（8～9月）、トビタテ！留学JAPAN（高校生コース、カナダ）に本科3年生1名が参加（9月）、ISTS 2017に専攻科生1名が参加（8月）、中国地区高専・海外協定校合同発表会 in Singaporeに専攻科生1名・本科生5名の計6名が参加（12月）、シンガポール科学技術研修に本科2名が参加（3月）した。 本校独自の活動としては、韓国への海外研修旅行（4日間）に本科12名が、海外インターンシップ（8日間）には4名が参加した（9月）。 ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励している。（随時実施済）</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>①-2 海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど参加する学生を積極的に支援し、継続して推薦する。</p> <p>学生の海外留学支援のため、日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行うと共に、学校の国際化やグローバル人材教育推進に資するため国際交流基金の創設・運用と、併せて国際団体が行う海外留学プログラムに関する情報提供を図る。</p>	<p>国際交流</p> <p>教務部</p> <p>専攻科</p> <p>各学科・科</p>	<p>①-2海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど、海外での学生の活動を推進する。</p> <p>(国際交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外インターンシップ実施に向け、 ・交流協定締結校・南ソウル大学校(韓国)や交流協議中の群山大学校(韓国)と、持続的な相互インターンシップ実施に向けた協議を継続する。 ・海外インターンシップの開催について学生に周知を図る。 ○学生の海外留学支援のため、 ・交流協定締結校・南ソウル大学校(韓国)との交流プログラムを中心として日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行い、環日本海ゲートウェイ拠点校として、他高専とのコラボレーションも推進する。 ・米子高専後援会(保護者会)などと連携し、国際交流基金の充実と効果的な運用を図る。 ・文部科学省、各種団体が行う海外研修・海外留学プログラムに関する情報提供、応募支援を行う。 <p>(教務部・専攻科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外インターンシップの開催について学生に周知を図る。 <p>(機械工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員や学生の国際的な会議・学会などへの参加により国際性の涵養に役立っている。 <p>(電気情報工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際学会・国際交流会に参加する学生への資金的な援助について検討する。 <p>(電子制御工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外留学や海外インターンシップ、その他交流会等への学生の参加を推進する。 <p>(物質工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種プログラムへの学生の参加を積極的に推進する <p>(建築学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外インターンシップ、海外研修等への学生の参加を推進する。 <p>(教養教育科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸張に関する情報交換を継続的に行う。 	<p>(国際交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協定校・南ソウル大学校、群山大学校の協力を得て、第2回米子高専海外インターンシップ(9月・派遣学生4名)を実施し、4年生の参加学生は、校外実習(既設単位)として単位認定を行った。 ○協定校・群山大学校との協定に基づき、長期インターンシップ生(4～9月・受入学生1名)受け入れのための面接選考(12月・不合格)を実施した。 ○地域の特色を活かした日韓地域協働方式によるグローバル人材育成(9月・派遣・海外インターンシップ)、留学生が地域と共に考える環日本海海洋環境問題(7月・受入)以上2件のJASSO奨学金申請が採択され、JASSO以外にも、鳥取県高校生海外体験支援補助金、(公財)鳥取県国際交流財団助成金等に応募し助成金を獲得した。(随時実施済) また、米子高専後援会(保護者会)からは、国際交流援助費(¥100万)、国際交流基金(¥50万)の予算化を頂き、海外派遣学生助成金、引率教員旅費、各種国際交流事業の実施、海外協定校の開拓等に活用している。助成金の効果的な運用を図るため、今年度から支給基準の見直しを行った。(4月実施済) <p>(教務部・専攻科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外インターンシップの開催について学生に周知を図った。(随時実施済) <p>(機械工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員や学生が国際的な会議・学会に参加し国際性の涵養に役立っている。(5月、9月実施済) 参加した学会・会議名と参加教員、学生数は以下の通り。 ・国際学会名:13th International Symposium on Experimental and Computational Aerothermodynamics of Internal Flows, Onna-son, Okinawa, Japan, 2017.5.8-11 参加教員:森田慎一教授 ・国際学会名:The 13th International Symposium on Experimental and Computational Aerothermodynamics of Internal Flows, May 8-11, 2017, Okinawa, Japan 参加教員:早水庸隆准教授 ・国際学会名:ISATE 2017 (11th International Symposium on Advances in Technology Education), 19-22 Sep 2017Ngee Ann Polytechnic, Singapore 参加教員:権田岳准教授 ・国際学会名:The Ninth JSME-KSME Thermal and Fluids Engineering Conference, October 27-30, 2017, Okinawa, Japan 参加教員:早水庸隆准教授、参加学生数:2名 ・国際学会名:The 12th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics, November 1-4, 2017, Kanazawa, Japan 参加学生数:3名 <p>(電気情報工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際学会・国際交流会に学生が積極的に参加し(1件、1人)、その旅費の一部を援助した。(随時実施済) <p>(電子制御工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外留学や海外インターンシップ、その他交流会等への学生の参加を推進した。(8～9月に3名の学生が韓国での研修及びインターンシップに参加した。9月には「トビタテ!留学JAPAN」で1名の学生がカナダでの研修に参加した) <p>(物質工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス等で海外インターンシップなどの参加について説明を行った。(10月実施済) ○合同研究発表会 in Singaporeに参加した。(1件、1名)(12月実施済) ○Global Link Singaporeに参加した。(1件、1名)(7月実施済) <p>(建築学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建築学科5年生1名が海外インターンシップ(9/8～15、韓国)に参加した。 ○建築学科5年生1名が海外研修(9/12～15、韓国)に参加した。 <p>(教養教育科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国語科と建築学科目担当者間で英語力の伸張に関する情報交換を行った。(6月実施済) 	<p>(電気情報工学科)</p> <p>学科で用意できる資金が限られている。</p>	<p>(電気情報工学科)</p> <p>援助のルールの見直し。</p>	<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>②留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。留学生の受入拡大や快適な居住環境の確保のため、必要に応じた寄宿舎の整備を図る。</p> <p>国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。学校の国際化やグローバル人材教育に資するため国際交流基金の創設・運用を図る。</p> <p>留学生教育の整備・充実に向けた検討を行う。留学生の受入推進及び教育環境整備を推進する。</p>	<p>国際交流 教務部 寮務部 事務部</p>	<p>②留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>(国際交流) ○留学生受入環境整備の一環として、 ・留学生交流プログラムを企画・実施する。 ・留学生シンポジウムへの参加を奨励する。 ・米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)を活用し、留学生OB・OGとの情報交換網を整備する。 ・地元ポスト・ファミリの実現に向け検討する。 ○交流協定締結校、国際協力機関、地方自治体と連携し行う国際交流活動の中で高専留学に関する広報を行う。 ○米子高専後援会(保護者会)などと連携し、国際交流基金の充実と効果的な運用を図る。 ○地方自治体などが行う留学生教育の整備・充実に向けた連絡会に参加する。</p> <p>(教務部) ○必要に応じて、留学生控室を整備する。 ○留学生交流プログラムへの参加を推進する。</p> <p>(寮務部) ○在寮する留学生に対してニーズ調査を行い、可能な対応策を実施する。 ○今後の留学生数の動向を予測し、将来の学寮整備計画の中で具体的な対応策を立案する。</p> <p>(財務) ○女子留学生の増加に対する整備計画を検討し可能なものから実施する。</p>	<p>(国際交流) ○留学生受け入れ環境整備の一環として、 ・南ソウル大・環境研修と合わせ、留学生が地域と共に考える環日本海海洋環境問題(7月・参加留学生10名・若狭湾・米子)を実施した。 ・中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが実施する留学生交流シンポジウムに参加した。(10月・参加留学生6名) ・Ynct-netを活用し、留学生OB・OGとの情報交換会を実施した。(9月) ・マレーシア・パハン大学在職の本校留学生OBとの交流協議・在籍留学生との交流会(12月)を実施した。 ・FF(フレンドシップ・フォース)鳥取交流会(9月・参加留学生6名)に参加した。 ・出前講座「世界と友達になろう! -異文化体験を通して世界の扉を開く-」を企画し、地元小学校に、ゲスト・ティーチャーとして留学生を派遣(7月・参加留学生4名、9月・参加留学生5名、2月・参加留学生3名)した。 ・話してみよう韓国語・鳥取大会(12月・参加留学生1名)に参加し、審査員特別賞を受賞した。 ・河崎地区餅つき大会に参加(12月・留学生3名)し、日本の伝統文化を経験すると共に、地域住民との交流を行った。 ○「海洋漂着ゴミを通して日韓の環境問題を考える研修」(南ソウル大・群山大・環境研修) (7月・入学生25名)の中で、高専留学に関する広報を行った。 ○米子高専後援会(保護者会)からの国際交流援助費(100万円)、国際交流基金(50万円)の効果的な運用を図るため、今年度から支給基準の見直しを行った。(4月実施済) ○留学生教育の整備・充実のため、鳥取県留学生交流推進会議(2月)に参加した。</p> <p>(教務部) ○印刷用紙、プリンター用インキ等の消耗品を留学生控室に備えている。(4月～実施済) ○国立山口徳地青少年自然の家で行われた中国地区留学生交流シンポジウムに留学生6名が参加した。(10月実施済)</p> <p>(寮務部) ○在寮する留学生に対してヒアリングを行い、今後の寮の整備計画に反映させた(3月実施済み)。 ○寮内での留学生交流会(レクリエーション)を行った。(12月実施済み。寮生約30名が参加)</p> <p>(財務) ○女子留学生を含む女子寮生の増加に対する当該年度の整備計画を検討した。(11月～実施済)</p>			達成した。
<p>③留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行の実施を継続するほか、国際交流活動の一つとして捉え、その他の留学生に関する行事も実施する。</p>	<p>国際交流 教務部</p>	<p>③留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を越えて毎年度提供する。</p> <p>(国際交流) ○外国人留学生の地域交流事業を企画・実施する。</p> <p>(教務部) ○外国人留学生研修旅行を年1回実施する。 ○留学生の要望・勉学上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施する。 ○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施する。</p>	<p>(国際交流) ○留学生受け入れ環境整備の一環として、 ・南ソウル大・環境研修と合わせ、留学生が地域と共に考える環日本海海洋環境問題(7月・参加留学生10名・若狭湾・米子)を実施した。 ・中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが実施する留学生交流シンポジウムに参加した。(10月・参加留学生6名) ・Ynct-netを活用し、留学生OB・OGとの情報交換会を実施した。(9月) ・マレーシア・パハン大学在職の本校留学生OBとの交流協議・在籍留学生との交流会(12月)を実施した。 ・FF(フレンドシップ・フォース)鳥取交流会(9月・参加留学生6名)に参加した。 ・出前講座「世界と友達になろう! -異文化体験を通して世界の扉を開く-」を企画し、地元小学校に、ゲスト・ティーチャーとして留学生を派遣(7月・参加留学生4名、9月・参加留学生5名、2月・参加留学生3名)した。 ・話してみよう韓国語・鳥取大会(12月・参加留学生1名)に参加し、審査員特別賞を受賞した。 ・河崎地区餅つき大会に参加(12月・留学生3名)し、日本の伝統文化を経験すると共に、地域住民との交流を行った。</p> <p>(教務部) ○6名の留学生の研修旅行を実施した。(3月実施) ○留学生の要望・勉学上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施した。(4月実施済) ○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施した。(第1回目は5月、第2回目は1月に実施済)</p>			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
4・管理運営に関する事項	運営会議	①中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。 (運営会議) ○中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、地域に根ざした本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。	(運営会議) ○中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、地域に根ざした特色ある本校独自の運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行った。(5～6月実施済)			達成した。
	運営会議	②本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に毎年度参加者を募る。 (運営会議) ○本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に参加者を募り参加を促す。	(運営会議) ○本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に毎年度参加者を募り、今年度は建築学科長が参加した。(9月実施)			達成した。
	事務部	③財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討する。 (財務) ○財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討し、対応できるものから実施する。	(財務) ○財務関係データの共有化、集約化を図り、各種調査に迅速に対応できるようにした。(随時実施済) ○建物の修繕等を要する現場に赴く際に併せてその周辺の安全管理状態を確認することで施設パトロールの省力化を図った。(随時実施済)			達成した。
	運営会議 事務部	④教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、全教職員のコンプライアンス意識向上を図る。 (運営会議・財務) ○教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、新任教職員オリエンテーションや各種研修会・アンケートによる全教職員のコンプライアンス意識の向上を図り、公的研究費の使用または管理・運営に当たり「誓約書」の提出を義務づける。 ○新任教職員を対象としたオリエンテーション等の機会を利用して説明周知を行い、教職員の意識向上に努める。	(運営会議・財務) ○教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、新任教職員オリエンテーションや各種研修会・複数のアンケート実施による全教職員のコンプライアンス意識の向上を図った。(4月～適宜実施済) ○公的研究費の使用あるいは運営・管理に当たり「誓約書」の提出を義務づけ、全教職員から提出を得た。(5月実施済) ○新任教職員を対象としたオリエンテーション等の機会を利用して説明周知を行い、教職員の意識向上に努めた。(4月～実施済) ○公的研究費に関するコンプライアンスについてのFD研修を実施した。(2月実施済・参加者34名)	(財務) ・説明周知を行っているが、他の機関等で不正が起こっていることから、コンプライアンス意識向上のための説明の機会をさらに増やす必要がある。	(財務) ・今後も積極的に説明会・研修等を実施する。	達成した。
	情報管理室 事務部	⑤情報セキュリティに関する監査体制の充実を図る。各監査の監査結果について、速やかに検討を行い対応する。 (情報管理室) ○独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努める。 ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識の向上のため、情報セキュリティに関するeラーニングや研修を1回以上開催する。 ○高専機材IT資産管理システムによるソフトウェア検査を実施すると共に、ソフトウェア及びパソコン管理体制を充実させる。 ○情報セキュリティ実施規則・実施規程に基づく実施手順を必要に応じて順次整備し、情報セキュリティ管理体制の充実を図ると共に、ガイドラインに則りインシデント発生時の早期対応を図る。 ○米子高専情報セキュリティインシデント発生時の早急な対応とそれに特化した組織の必要性に鑑みて、米子高専CSIRT(シーサー)を組織的に立ち上げ規則等の整備を行い具体的な運用を図る。 (財務) ○監査結果への迅速な対応とともに期末における決算に関する検証を継続的に実施する。	(情報管理室) ○情報セキュリティ独自監査を実施した。(11月実施済) ○情報セキュリティ研修会を実施した。(8月実施済) ○全国高専一斉の標的型攻撃メール訓練を実施した。(2～3月実施済) ○機材側での準備が遅れているため、ソフトウェア検査は未実施であるが、報告に必要なライセンスは一括して管理しており、迅速に対応できる体制は整えている。(4月～実施済) ○米子高専CSIRT(シーサー)を組織化し、具体的な運用体制を整備した。(4月～実施済) (財務) ○会計検査院による決算検査報告及び会計監査人による外部監査における指摘事項又は検査概要について、本校に照らし合わせ実態確認を実施している。(随時実施済) ○平成25年度期末から債権債務確認、物品検査及び期末決算を正常化させるための日常監査のフォローアップを実施した。(随時実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を目指すとともに、必要に応じてその運用を見直す。	運営会議 事務部	⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を目指す。 (運営会議) ○各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした検証作業を実施する。 ○全教職員のコンプライアンス意識の向上を図り、公的研究費の使用または管理・運営に当たり「誓約書」の提出を義務づける。 (財務) ○監事監査の指摘事項も考慮の上、各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした月毎の予算執行状況を運営会議・学科長会議に諮り検証作業を実施する。	(運営会議・財務) ○各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした検証作業を実施した。(10～3月実施済) ○全教職員のコンプライアンス意識の向上を図り、公的研究費の使用または運営・管理に当たり「誓約書」の提出を義務づけ、全教職員から提出された。(5月実施済) (財務) ○10月から月毎の予算執行状況を運営会議・学科長会議に諮り検証作業を実施した。(～3月実施済) ○公的研究費に関するコンプライアンスについてのFD研修を実施した。(2月実施済・参加者34名)			達成した。
⑦事務職員や技術職員の能力の向上のため、機構本部や文部科学省、地方自治体等が主催する研修などに職員を積極的に参加させる。	技術教育支援センター 事務部	⑦事務職員や技術職員の能力の向上のため、機構本部や文部科学省、地方自治体等が主催する研修などに職員を積極的に参加させる。 (技術教育支援センター) ○機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させる。また、企業等からも要請があれば講習会を開催する。 ○支援センター主催の部内研修のやり方について検討する。 ○高専機構職員表彰の申請について検討する。 (総務) ○機構や大学法人等主催の各種研修・講習会への参加を推進する。	(技術教育支援センター) ○機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加するとともに、企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加した。 ・平成29年度IT人材育成研修会に1名参加した。(8月実施済) ・平成29年度中国地区技術職員研修に1名参加した。(8月実施済) ・平成29年度西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(建設・環境系)に1名参加した。(8月実施済) ・平成29年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(機械系、情報系)に2名参加した。(8～9月実施済) ・平成29年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会に2名参加した。(8～9月実施済) ・第16回松江工業高等専門学校実践教育支援センター職員研修会に2名参加した。(9月実施済) ・平成29年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会に1名参加した。(10月実施済) ・JIS溶接技能者評価試験研修に1名参加した。(9月実施済) ・機械検査実技セミナーに1名参加した。(9月実施済) ・FATECトレーニングスクールに1名参加した。(11月実施済) ・在職者向け職業訓練「機械組立仕上げのテクニク」に1名参加した。(2月実施済) ・第11回統合認証シンポジウムに1名参加した。(3月実施済) ・2017年度信州大学実験・実習技術研究会に1名参加した。(3月実施済) ・日経建築建材展2018セミナーに1名参加した。(3月実施済) ・今年度は「企業人を対象とした汎用旋盤講座」を公開講座として開催し、1名の受講者があった。(8月実施済) ○支援センター主催の部内研修については、「学科再編に関する座談会」を実施した。(1月実施済) ○高専機構職員表彰の申請については、検討していない。 (総務) ○機構や大学法人等主催の各種研修・講習会に参加した。(4月～実施済)	(技術教育支援センター) ○高専機構職員表彰についての照会は、ルーチン化してほしい。		達成した。
⑧事務職員及び技術職員の人事交流を引き続き推進する。	技術教育支援センター 事務部	⑧事務職員及び技術職員に関する人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。 (技術教育支援センター) ○人事交流の一環として中国地区高専での技術職員の授業見学を継続して実施する。 (人事) ○事務職員及び技術職員の人事交流が円滑に行えるよう随時調整を行う。	(技術教育支援センター) ○人事交流の一環として中国地区高専での技術職員の授業見学については、平成29年度中国地区高等専門学校技術支援組織長会議及び技術長会議で今後の継続して推進することを確認した。(8月実施済) ・学部高専への授業見学を4名実施した。(11月実施済) ・呉高専より授業見学を3名受け入れた。(1月実施済) (人事) ○事務職員及び技術職員の人事交流が円滑に行えるよう随時調整を行った。(4月～実施済)			達成した。

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>⑨教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行う。 学生に対する情報セキュリティ意識の啓発・強化を図る。 情報セキュリティ運営体制に関し、定期的に第三者機関による監査を実施する。 情報セキュリティ対策を適切に推進する。 高専統一システムに係る環境整備を推進する。</p>	<p>情報セキュリティ委員会 情報管理室</p>	<p>⑨適切な情報セキュリティ対策を推進する。 (情報セキュリティ委員会) ○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識向上のために、情報セキュリティに関する研修会を1回以上開催する。 ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓発・強化を講演会などを通じて実施する。 ○情報セキュリティ運営体制に関し、第三者機関による独自監査を実施する。 ○米子高専CSIRT(シーサート)を組織的に立ち上げ規則等の整備を行い、情報セキュリティインシデント発生に対する具体的な迅速な対応を図る。 (情報管理室) ○情報セキュリティ実施規則・実施規程に基づく実施手順を必要に応じて順次整備し、情報セキュリティ管理体制の充実を図ると共に、ガイドラインに則りインシデント発生時の早期対応を図る。 ○独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努める。 ○高専機構IT資産管理システムによるパソコン・ソフトウェア検査を実施する。 ○高専統一ネットワークシステムの導入を実施する。 ○米子高専情報セキュリティインシデント発生時の早急な対応とそれに特化した組織の必要性に鑑みて、米子高専CSIRT(シーサート)を組織的に立ち上げ規則等の整備を行い具体的な運用を図る。</p>	<p>(情報セキュリティ委員会) ○教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行いコンプライアンス意識の向上を図った。(8月実施済) ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓発・強化を新入生オリエンテーション、LHRや特別講演会などを通じて実施(4月から適宜実施済)し、具体的には1年生には新入生オリエンテーション、2～3年生にはLHR内で実施済である。 ○情報セキュリティ運営体制に関し、第三者機関による独自監査(原則として毎年度実施)を実施し、運営体制強化に役立てた。(11月実施済) ○全教職員に対して、情報セキュリティ強化に係る誓約書の提出を義務付け、情報セキュリティレベルの意識向上を図った。(6月実施済) ○平成29年度から規則化した米子高専CSIRT(シーサート)を中心として、情報セキュリティインシデントに対して組織的な活動を開始した。(4～3月実施済) ○高専機構IT資産管理システムによるパソコン・ソフトウェア検査を新システムを用いて実施した。(4月実施済) ○高専統一ネットワークシステムを導入した。(10月実施済) (情報管理室) ○情報セキュリティ強化に係る誓約書等の提出を、全教職員、全学生に実施した。(6～7月実施済) ○情報セキュリティ独自監査を実施した。(11月実施済) ○機構側での準備が遅れているため、ソフトウェア検査は未実施であるが、報告に必要なライセンスは一括して管理しており、迅速に対応できる体制は整えている。(4月～実施済) ○高専機構統一ネットワークシステムへの移行作業を実施した。(9月実施済) ○米子高専CSIRT(シーサート)を組織化し、具体的な運用体制を整備した。(4月～実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>⑩機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。なお、その際には、学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。</p>	<p>運営会議</p>	<p>⑩機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。 (運営会議) ○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校独自の個別の年度計画を定める。また、年度計画に対する実施状況のフォローアップを各部署で実施する。 ○学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を検討する。</p>	<p>(運営会議) ○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校個別の年度計画を定め(6月実施済)、また、年度計画に対する実施状況の中間フォローアップを各部署で各点検部会とともに実施した。(10月実施済) ○学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標として、科研費・外部資金獲得教員数と獲得額、および特例適用専攻科認定教員数などを検討した。(8～3月実施)</p>			<p>達成した。</p>
<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 業務運営の効率化を図る観点から、更なる共同調達の推進や一般管理業務の外部委託の導入等により、一層のコスト削減を図る。 平成19年度に策定した随意契約見直し計画に基づき、一層の取り組みを推進する。</p>	<p>事務部</p>	<p>(財務) ○平成29年度における機構の予算編成・配分方針に基づく効率化を踏まえた戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ○平成19年度に策定した随意契約見直し計画の実施状況を含む入札、および契約の適正な実施に取り組み競争性・透明性の確保を図る。</p>	<p>(財務) ○運営費交付金の厳しい削減状況を踏まえ、学内の予算配分を見直した。今後の予算配分に関し、骨格から見直し検討している。(4月～実施済) ○一般競争により競争性は確保し、予算の有効利用に努めている。(4月～実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 外部資金の獲得に努め、自己収入の増加を図る。 各種補助金への申請を奨励する。 継続的で効率的な予算配分を実施するために可能な限り増収の方策を検討し、実施する。</p>	<p>地域共同テクノセンター 事務部</p>	<p>(地域共同テクノセンター) ○産学連携コーディネータを配置し、技術相談から共同研究・受託研究への展開を図る。 ○科研費以外の各種の補助事業に対し、シーズがマッチする教員へ申請を打診する。 ○産学連携コーディネータによる、企業向け補助金への参画支援、申請に関するアドバイスを行う。 (財務) ○継続的に自己収入の確保に努めるとともに、新たな自己収入の事項を検討する。</p>	<p>(地域共同テクノセンター) ○産学連携コーディネータを通して大山ロイヤルホテル等から技術相談を受け、寄附金および共同研究の獲得につなげた。(4～3月実施済) ○科研費以外の各種の補助事業の情報をHP又はメールにて周知し、シーズがマッチするものがあれば、産学連携コーディネーター又はテクノセンタースタッフが申請を打診した。(4～3月実施済) ・米子市の産学官しごとの種(シーズ)づくり支援事業に2件申請し採択された。 ○産学連携コーディネーターにより教員のサポイン及びNEDOへの申請等をサポートした。(4～3月実施済) (財務) ○新たな自己収入の事項がないか検討した。(4月～実施済)</p>			<p>達成した。</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	主たる 担当部署	平成29年度計画	実績報告 (期末)	課題・問題点 (期末)	改善策 (期末)	実施結果 (達成状況)
<p>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。 施設マネジメントの充実を図り、教育研究活動に対応した適切な施設の確保・活用を計画的に進める。</p>	<p>運営会議 インフラ整備 検討委員会 事務部</p>	<p>(運営会議・インフラ整備検討委員会) ○教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。 (財務) ○施設パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○コストを含めて実施可能な整備を迅速に行う。</p>	<p>(運営会議・インフラ整備検討委員会・財務) ○教育研究の推進や学生の福利厚生改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定し、次の工事を実施した。(8月～実施済) ・ライフライン再生(排水設備等)工事 ・校舎A棟外屋上防水その他改修工事 ・武道場改修工事 また、平成30年度も引き続きライフライン再生(排水設備等)工事「Ⅱ期」の内示を受けた。 (財務) ○施設パトロールの際に発見した危険箇所について下記のとおり整備を迅速に行った。 ・講義棟吹き抜け廊下の手摺修繕(6月実施済) ・裏門付近段差注意の看板設置(7月実施済) ・男子寮浴室タイル破損修繕(9月実施済)</p>			<p>達成した。</p>
<p>2 人事に関する計画 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。</p>	<p>運営会議</p>	<p>(運営会議) ○教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。 ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼する。 ○各学科・科から提出された資料をもとに、教員人事会議で審議の後、運営会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告する。</p>	<p>(運営会議) ○教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図った。(4月～実施済) ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野及び派遣候補者の推薦を依頼したが、派遣候補者の推薦はなかった。(6～7月実施済)</p>			<p>達成した。</p>